

「個別点検」 11-1 雨量計

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	時計の確認	記録と現在時刻が合っているか確認し、ずれていたら調整する。								装置の正常動作の確認 標準値（規格値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	専用記録器 打点式記録計
2	各可動部の確認	目視により可動部の動作状況を確認する。 異常音がある場合は注油する。									専用記録器 打点式記録計
3	パルス積算の確認	記録計または変換器入力にパルス（短絡）を入れ、積算の確認をする。 ・100パルス与えて積算ミスがないこと及び同時にパルス出力も確認する。 0.5mm/1Pは50mm 1mm/1Pは100mm									専用記録計および変換器
4	パルス出力確認	転倒マスを転倒させパルス（接点）が正常に出力されるか確認する。このとき軽く動作すること。							テスタ		
5	B C D出力の確認	A/Dコンバータの表示と出力値が合っていることの確認をする。							テスタまたはB C Dチェッカ		A/Dコンバータ付きの場合。
6	雨量マスによる精度の確認	20mmの雨量マスにより発信器に点滴し記録値を確認する。							雨量マス 20mm		
7	自記記録計等の確認	自記記録計等は、インクの補充、記録紙の交換をする。									センサの点検で行う
8	発信器の清浄	発信器内部の清浄 口水器（ロード）にたまった砂や埃を取り除く。								周囲環境を考慮した機能維持	
9	ヒータの確認	ヒータの導通を確認する。 20Ω～30Ω							テスタ	装置の正常動作の確認 標準値（規格値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	ヒータ付きの場合でパイプヒータ。
10	絶縁抵抗確認	ヒータ用 AC100V 端子とアース間の絶縁抵抗を確認する。 10MΩ以上							絶縁抵抗計 (500V メガー)	ヒータ付きの場合。 ・アレスタ付きの場合は、アレスタをはずして実施する。	
11	検定有効期間の確認	検定有効期間（5年）以内であることを確認する。									

注 地域環境条件により点検周期を決定する。

「個別点検」 11-2 水位計（水研62型）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	時計の確認	記録と現在時刻が合っているか確認し、ずれていたら調整する。								装置の正常動作の確認 標準値（規格値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
2	Cm ペンの折り返しの確認	0及び100Cmの折り返しは、正しい位置で折り返すか確認する。									
3	記録値の確認	実測値と記録値を比較し精度（±1cm）を確認する。 ずれている場合は調整する。									A/Dコンバータ付きの場合は、この表示も確認する。
4	記録値とA/Dコンバータの確認	記録値とA/Dコンバータの表示が合っているか確認する。 ずれている場合は調整する。									A/Dコンバータ付の場合。
5	フロート及びワイヤの確認	フロートの傷や、ワイヤによれが入っていないか確認する。									
6	自記記録計等の確認	自記記録計等はインクの補充、記録紙の交換を行う。									
7	機器本体の清掃等	機器の内外面を清掃する。									周囲環境を考慮した機能維持

注 地域環境条件により点検周期を決定する。

「個別点検」 11-3 水位計（水晶式）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	取付状況	センサの設置状態を確認する。								装置の正常動作の確認 標準値（規格値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
2	接続端子部の確認	接続ケーブル、コネクタ及び端子等の接続状態を確認する。									
3	カートリッジペン	目視、交換。									
	注油	目視、駆動部。									
	擬似入力試験	1～5V入力							基準電圧発生器		
4	動作確認	変換器の設定内容を確認する。									
5	D. O出力	D. Oチェックにより動作を確認する。									
6	比較試験	現水位と機器の水位の比較し確認する。							量水板、手測水位計		違いがある場合は調整する。
7	機器本体の清掃等	計器板の清掃をする。								周囲環境を考慮した機能維持	
8	図書類・予備品等の確認	図書・予備品類の整理、数量等を確認する。								障害時の備え	

注 地域環境条件により点検周期を決定する。

「個別点検」 11-4 音波水位計

No.	確認事項の概要		作業の実施範囲、具体的方法		点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
					毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	電源電圧の確認		電源部入出力電圧を確認する。								テスタ	装置の正常動作の確認 標準値（規格値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	出力は電圧測定端子のある場合のみ
2	センサ取付状況確認		センサの設置状態（結露及び錆等）を確認する。										
3	ケーブル接続状況確認		接続ケーブル、コネクタ及び端子等の接続状態を確認する。										
4	記録計	カートリッジペン	目視、交換										
		擬似入力試験	1～10V入力								装置テストSW等による		
5	動作確認		センサ感度、マーカ波形、水面波形を確認する。								オシロスコープ		
6	D. O出力		D. Oチェックにより動作を確認する。								テスタ		
7	比較試験		現水位と機器の水位を比較し確認する。								量水板、手測水位計		
8	外観確認及び清掃		保護管等の破損、音波管内部の清浄、音波管にたまった砂・土や蜘蛛の巣等を取り除く。									周囲環境を考慮した機能維持	
9	機器本体の清掃等		機器本体等の内外面を清掃する。										
10	図書類・予備品等の確認		図書・予備品類の整理、数量等を確認する。									障害時の備え	

注 地域環境条件により点検周期を決定する。

「個別点検」 11-5 超音波積雪深計

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	電源電圧の確認	電源部入出力電圧を確認する。						○	テスタ	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
2	超音波送受器動作確認	超音波送受器の入力波形を確認する。 ・送信波形を確認する。 ・受信波形を確認する。						○	オシロスコープ		
3	温度センサ動作確認	温度センサの動作確認をする。 ・通気ファン電源を確認する。 ・通気ファン電流を確認する。						○	テスタ		
4	処理部の動作確認	処理部の動作確認をする。 ・送受器、温度センサの設置高さの確認をする。 ・送受信波形の確認をする。						○	オシロスコープ スケール		
5	気象検定の確認	気象検定の有効期間を確認する。						○			
6	外部出力確認	模擬積雪（発砲スチロール 300×300 程度等）により積雪深の測定及びテレメータ出力を確認する。 ・模擬積雪により表示値を確認する。 ・テレメータ出力信号を確認する。						○	模擬板及びテスタ		
7	据え付け状態の確認	据え付け状態、緩み等がないことを確認する。						○		周囲環境を考慮した機能維持	
8	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタ及び端子等の接続状態を確認する。						○			
9	機器本体の清掃等	機器等の内外面を清掃する。						○			
10	図書類・予備品等の確認	図書類の整理・保管されていることを確認する。						○		障害時の備え	
		予備品類の保管状態・数量等を確認する。						○			

注 点検は、降雪期前に行うことが望ましい。

「個別点検」 11-6 光波積雪深計

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考	
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月				
1	測定面積状態の確認	測定面上にゴミ、汚れ等がないよう確認をする。							○	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握		
2	測定点（ポイント）の確認	ポイント確認用マーカ（可視光レーザ）を使用して、測定板中心付近にレーザ光が点灯していることを確認する。							○		レーザポイントマーカ	
3	センサ取付角度の確認	角度測定計を用いセンサ取付角度がズレていないかを確認する。							○		傾斜計	
4	電源・電圧値の確認	変換器側のターミナル位置で 規定値の±10%以内							○		テスタ	
5	光量の確認	テスト用測定板及び測定面を計測したとき、積雪深、傾斜距離、反射光量、センサ内部温度を測定し記録する。前回の記録値と比較して光量値が60以上あることを確認する。							○		テスト用測定板（白面及び黒面）	
6	外部出力の確認	雪のある場合は、雪を積んで積雪深値の出力を確認する。 ・測定板により表示値を確認する。 ・テレメータ出力信号を確認する。							○		テスト用測定板及びテスタ	
7	据え付け状態の確認	据え付け状態、緩み等がないことを確認する。							○	周囲環境を考慮した機能維持		
8	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタ及び端子等の接続状態を確認する。							○			
9	機器本体の清掃等	機器等の内外面を清掃すること。							○			
10	図書類・予備品等の確認	図書類の整理・保管されていることを確認する。							○	障害時の備え		
		予備品類の保管状態・数量等を確認する。							○			

注 点検は、降雪期前に行うことが望ましい。

「個別点検」 11-7 風向風速計

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	方位の確認	発信器を各方位に合わせ、記録及び出力値、可動部の動作状況の確認をする。 0～540° / 0～1V 他						○	方位盤、デジタルボルトメータ	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	瞬間値に切り替わること。
2	風速の確認	発信器に回転を与え、記録及び出力値の可動部の動作状況を確認する。 0～60m/s/0～1V 他 10m/s 以下 0.5m/s 以内 10m/s 以上 5%以内						○	回転計、デジタルボルトメータ		風速の確認は、点検時の風速で行うものとする。 零点確認は、発信器のプロペラを固定すれば可能。 しかし瞬間値に切り替わること。
3	時計の確認	記録と現在時刻が合っているか確認し、ずれていたら調整する。						○			専用記録計、打点またはペン式記録計の場合。
4	インクの確認	ペンの詰まりやインクのかすれ等の確認をする。 ・詰まっている場合は清掃をする。 ・かすれや、薄くなっている場合はインクの補充をする。						※			※は、必要に応じて点検を実施する。
5	可動部の確認	目視により可動部の動作状況を確認する。異常がある場合は注油する。						○			
6	モータの確認	異常音または異常に熱くなっていないか確認する。						○			
7	記録値の確認	記録計の入力に規定電圧を印可し、記録値を確認する。						○	電圧発生器		
8	気象検定の確認	気象検定の有効期間を確認する。						○			
9	据え付け状態の確認	据え付け状態を確認し、緩み等がないことを確認する。						○			周囲環境を考慮した機能維持
10	接続部の確認	端子及びコネクタの接続状況を確認し、緩んでいる部分は締めなおす。						○			
11	機器本体の清掃等	機器等の内外面を清掃する。						○			
12	図書類・予備品等の確認	図書類の整理・保管されていることを確認する。						○			障害時の備え
		予備品類の保管状態・数量等を確認する。						○			

「個別点検」 11-8 温度計（白金抵抗体）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	時計の確認	記録と現在時刻が合っているか確認し、ずれていたら調整する。								装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	時計機能がある場合。 （打点またはペン式記録計）
2	可動部の確認	目視により可動部の動作状況を確認する。 異常音がある場合は注油する。									打点またはペン式記録計
3	通過シエルタファンの確認	異常音または異常に熱くなっていないか確認する。									通過シエルタ方式の場合。
4	記録値の確認	記録計の入力に規定電圧を印可し、記録値を確認する。							電圧発生器		打点またはペン式記録計
5	温度計との確認	アスマン温度計による実測値と記録値を比較し確認する。 ±0.5℃以内							アスマン温度計		
6	気象検定の確認	気象検定の有効期間を確認する。									
7	据え付け状態の確認	据え付け状態、緩み等がないことを確認する。								周囲環境を考慮した機能維持	
8	接続部の確認	端子の接続状況を確認し、緩んでいる部分は締めなおす。									
9	機器本体の清掃等	機器等の内外面を清掃すること。									
10	図書類・予備品等の確認	図書類の整理・保管されていることを確認する。								障害時の備え	
		予備品類の保管状態・数量等を確認する。									

「個別点検」 11-9 埋設路面温度計（白金抵抗体）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	時計の確認	記録と現在時刻が合っているか確認し、ずれていたら調整する。								装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	時計機能がある場合 （打点またはペン式記録計）
2	各可動部の確認	目視により可動部の動作状況を確認する。 異常音がある場合は注油する。									打点またはペン式記録計
3	予備抵抗体の確認	予備抵抗体感部の抵抗値を測定する。 100～120Ω							テスタ		発信器ダブル感部の場合
4	記録値の確認	記録計の入力に規定電圧を印可し、記録値を確認する。							電圧発生器		打点またはペン式記録計
5	据え付け状態の確認	据え付け状態、緩み等がないことを確認する。								周囲環境を考慮した機能維持	
6	接続部の確認	端子の接続状況を確認し、緩んでいる部分は締めなおす。									
7	図書類・予備品等の確認	図書類の整理・保管されていることを確認する。								障害時の備え	
		予備品類の保管状態・数量等を確認する。									

「個別点検」 11-10 路面凍結検知装置

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	電源電圧の確認	電源部入出力電圧を確認する。						○	テスタ	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
2	気温計の動作確認	気温計の動作確認をする。 ・通気ファン電源を確認する。 ・通気ファン電流を確認する。 ・計測温度を基準温度計と比較し確認する。						○	テスタ、アスマン温度計（基準温度計）		
3	路温計の動作確認	路温計の動作確認をする。 ・基準黒体炉、氷または基準路温計等を用いて路温の確認をする。						○	基準黒体炉、氷、基準路温計等		
4	水分計の動作確認	水分計の動作確認をする。 ・模擬路盤により、水分検出状況を確認する。 ・路面に水を散布し、水分検出状況を確認する。						○	模擬路盤、水		
5	処理部の動作確認	処理部の動作確認をする。 ・気温設定基準値の確認をする。 ・路温設定基準値の確認をする。 ・水分設定基準値の確認をする。 ・タイマ設定基準値の確認をする。						○	テスタ		
6	外部出力の確認	模擬データ入力による動作を確認する。 ・表示部の表示値を確認する。 ・テレメータ出力信号を確認する。						○	基準抵抗器、基準電圧発生器、模擬路盤		
7	据え付け状態の確認	据え付け状態、緩み等がないことを確認する。						○			
8	接続部の確認	端子の接続状況を確認し、緩んでいる部分は締めなおす。						○			
9	機器本体の清掃等	機器等の内外面を清掃する。						○			周囲環境を考慮した機能維持
10	図書類・予備品等の確認	図書類の整理・保管されていることを確認する。						○			障害時の備え
		予備品類の保管状態・数量等を確認する。						○			

注 点検は、降雪期前に行うことが望ましい。

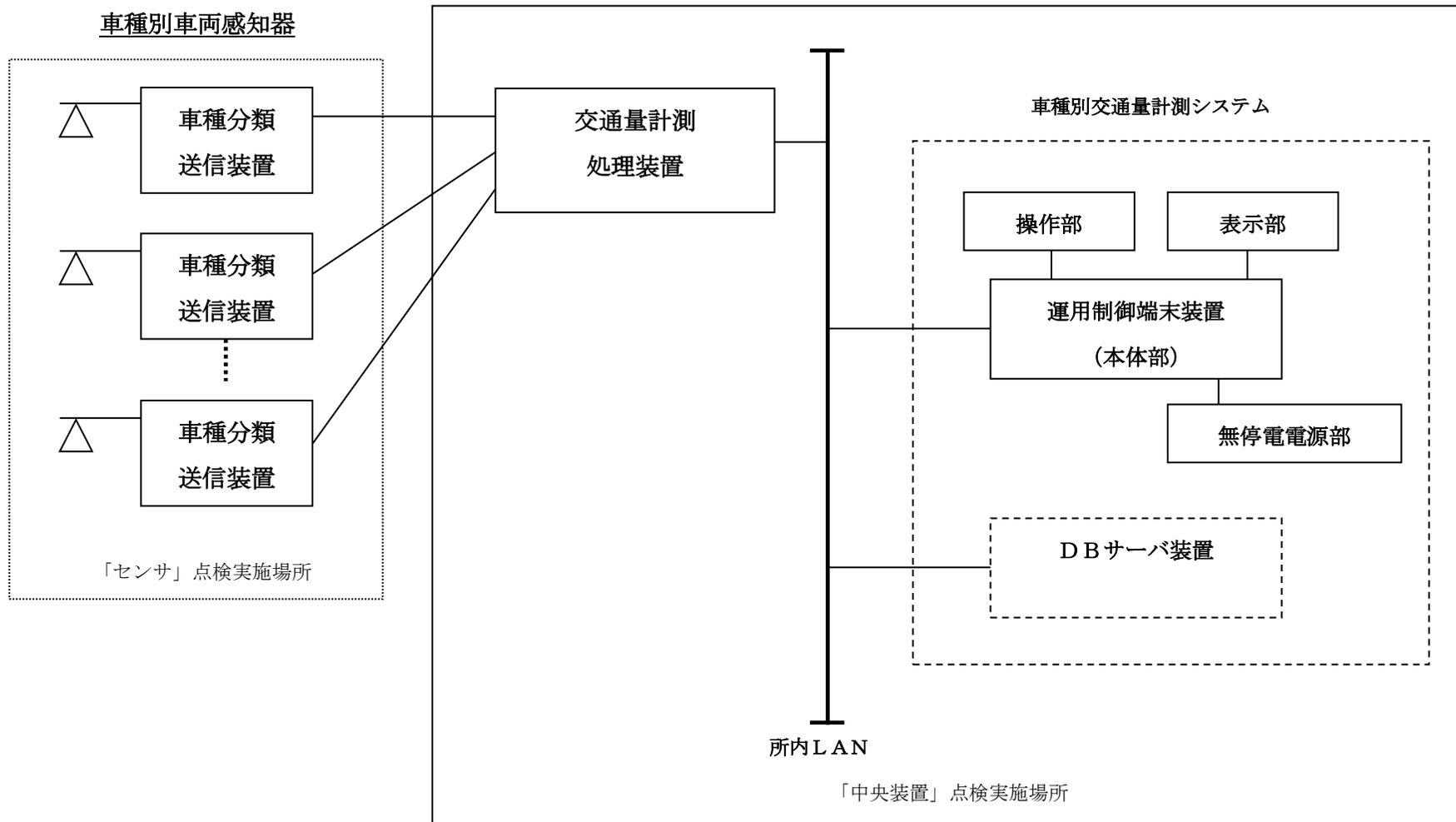
「個別点検」 11-11 車種別車両感知器（センサ）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備 考	
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月				
1	外観確認	破損、疵、塗装剥離、変形の有無を確認する。						○		装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	作業場所はセンサ設置箇所 なお、「8. データ整合確認」 については、「中央装置」個別 点検との同時実施が必要となる。	
2	据付状態の確認	機器本体、アーム、送受器の取付方向、位置、配管状態を確認する。						○				
3	配線状態の確認	配線状態、布線状態、圧着状態、外線端子の緩みを確認する。						○				
4	取付状態の確認	シャーシ、コネクタの取付状態、ビスの状態を確認する。						○				
5	機械的動作状態の確認	扉の開閉状態、かん合状態の確認をする。						○				
6	感知ユニット	超音波式感知ユニットの確認	・路面反射波に対して、送信周期及びゲートが追従することを確認する。 ・車両からの反射波が十分なレベルであることを確認する。 ・路面波及び車両反射波以外の不要反射波がないことを確認する。 ・感知器動作が正常であることを確認する。						○			
		ループ式感知ユニットの確認	・ループコイル間の干渉がないことを確認する。 ・全車両検知動作が正常であることを確認する。 ・低床車検知動作が正常であることを確認する。						○			
7	機能	時刻設定動作の確認	スイッチにより年月日時分を設定でき、モニタパネルに表示されることを確認する。						○			
		記録時間間隔の確認	5分間隔、毎5分に交通量表示がゼロクリアされることを確認する。						○			
		車両分類動作の確認	走行車両が仕様どおりの車種に分類されることを確認する。						○			
		データの確認	総交通量及び車種別交通量が実車両に対して誤差の少ないことを確認する。 10%以内						○			
		異常走行動作の確認	ループDETのみONした時、判別不能台数として処理されることを確認する。						○			
		異常表示の確認	ループ及び超音波DET異常時、異常モニタが転倒することを確認する。						○			
		表示切替の確認	車線切替、車種切替により表示内容が正常に表示されることを確認する。						○			
		伝送確認	着呼動作、中央側手動操作により動作を確認する。						○			
			送信レベルの確認をする。 -6dB±1dB						○			
8	データ整合確認	人手による台数計測（カウント）を5分間車種別に実施して確認する。						○	台数カウンタ			

「個別点検」 11-12 車種別車両感知器（中央装置）

No.	確認事項の概要		作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
				毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	装置全体	電源の確認	本体、モニタ、プリンタ、UPSの電源が入っているか確認する。						○		周囲環境を考慮した機能維持	作業場所は中央装置設置箇所 なお、「7. データ整合確認」 については、「センサ」個別点 検との同時実施が必要となる。
		ケーブルの確認	マウス、キーボード、モニタ、LAN、プリンタのケーブルが正常に挿入されているか確認する。						○			
		機器の清掃等	機器の清掃をする。						○			
2	本体	入力装置確認	マウス、キーボードが正常に反応するか確認する。						○		装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
3	モニタ	画面表示確認	モニタの画面焼け、色合い等を確認する。						○			
4	プリンタ	印刷の確認	ハードコピー、月報が正常に印刷されることを確認する。						○			
5	UPS	バッテリー確認	バッテリーの交換時期かどうかを確認する。						○			
6	機能	障害状況画面若しくは端末状況一覧画面の確認	障害状況画面もしくは端末状況一覧画面にて、各端末の状況が異常になっていないかを確認する。						○			
		時系列一覧画面（5分データ）の確認	時系列一覧画面にて、現在までの5分間データが欠測なく収集されていることを確認する。						○			
		時系列一覧画面（1時間データ）の確認	時系列一覧画面にて、現在までの1時間データが欠測なく収集されていることを確認する。						○			
		時系列一覧画面での車種別データの確認	時系列一覧画面にて車種別分類状況を確認し、判別不能台数が異常に多い、4車種構成が不自然である等の異常がないことを確認する。						○			
		月報画面の確認	表示システム月報画面にて、月報データが存在する（作成済である）ことを確認する。						○			
		上位状況一覧画面の確認	上位状況一覧画面にて月報データの最終上位配信日時を確認し、月次処理実行日（毎月10日）になっていることを確認する。						○			
		障害履歴画面若しくはロギング画面の確認	障害履歴画面やロギング画面にて障害履歴を確認し、重要障害がないことを確認する。						○			
		ハード前面LEDランプの確認	HDD異常ランプ等、異常を示すLEDが点灯していないことを確認する。						○			
		イベントログ（Windows 付属機能）の確認	OS機能のイベントログ（システムおよびアプリケーション）を確認し、ハード異常やOS異常の兆候や発生を示すログが無いことを確認する。						○			
7		データ整合確認	センサで取得されたデータを中央装置により確認し、センサ個別点検にて実施される「人手による台数計測データ」との照査を行う。						○			

車種別車両感知器 中央装置



車種別車両感知器 (センサ～中央装置) システム構成図 (例)

「個別点検」 11-13 VI計

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	外観各部の確認	箱体の破損、湾曲の有無を確認する。					○			周囲環境を考慮した機能維持	
		各部の清掃をする。					○				
		電源コードプラグの接続状態を確認する。					○				
		機器内配線の状態を確認する。					○				
		ケーブルの絶縁抵抗を測定し、設置時のデータと比較して著しく低下していないことを確認する。					○				
		防水 ケーブル穴コーキングを目視により確認する。					○				
	ボックス内に水が浸入していないか確認する。					○					
2	投受光器の確認	防塵筒の汚れ、破損、錆、はがれの有無を確認する。					○			周囲環境を考慮した機能維持	
		防塵部 防塵筒の筒内の清掃をする。					○				
		防塵部 防塵フィルターの清掃及び取替えをする。					○				
		レンズ部 内部の清掃、確認をする。					○				
		レンズ部 レンズの清掃、取替え及び確認をする。					○				
		光源部 内部の清掃及び確認をする。					○				
	ランプの清掃、取替え及び確認をする。					○					
3	記録器の確認	記録紙の確認をする。					○			装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
		インク及びオイル補充をする。					○				
		記録計針の確認をする。					○				
		記録計の指示を透過率指示値に補正する。					○				

「個別点検」 12-1 耐雷トランス（低圧用）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	避雷素子の確認	破損、変色、発熱等を確認し、劣化した素子は交換する。					○		装置の正常動作の確認 標準値（規格値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	避雷素子には種々のものがあるので、劣化及び交換の判断は説明書を参照すること。 避雷素子は取り外して測定する。	
2	絶縁抵抗の確認	一次、二次端子をそれぞれ一括し、一次と接地間、二次と接地間及び一次と二次間を500V絶縁抵抗計で測定し100MΩ以上であることを確認する。						○			絶縁抵抗計 (500Vメガー)
3	接続部の確認	接続ケーブル、端子等の接続状態を確認する。									○
4	機器本体の清掃等	機器本体の外表面を清掃する。							○	周囲環境を考慮した機能維持	
5	図書類・予備品等の確認	図書類が整理保管されていることを確認する。							○	障害時の備え	
		予備品類の保管状態・数量等を確認する。							○		

「個別点検」 13-1 処理装置（入出力コンソール、通信制御装置含む）（ダム管理用制御処理設備、レーダ雨（雪）量計システム、地震情報システム）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備 考
			毎 日	1 ヶ 月	2 ヶ 月	3 ヶ 月	6 ヶ 月	12 ヶ 月			
1	電圧等の確認	チェック端子等により各部電圧等の測定を行い、基準値内にあることを確認し、必要があれば調整する。						○	電圧計、デジタルマルチメータ	装置の正常動作の確認、維持 標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	
2	電池の交換	バックアップ電池の交換周期を確認し、対象となるものは交換する。						○			
3	自動再起動の動作確認	停電復旧後、自動的にシステムが再起動することを確認する。						○			
4	入出力コンソール部の動作確認	キーボードの動作確認及び表示を確認する。						○			必要とする装置のみ。
		ディスプレイ部の輝度、画面位置サイズなどの確認をする。						○			
		プリンタ部の動作を確認する。 オフラインで文字を印字し、文字乱れの有無確認、紙送り動作、リボン送り動作の確認をする。						○			
5	動作確認	処理装置のテストプログラムによる動作を確認する。						○			
6	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタ、端子の接続状態を確認する。						○			
7	機器本体の清掃等	機器内外面の清掃をする。						○		周囲環境を考慮した機能維持	
		エアフィルタを取り外し目づまりの点検及び清掃をする。						○			
		筐体ファンの確認及び清掃をする。 冷却ファンの動作確認、清掃及び注油をする。						○			
		機器据付け状態を確認する。						○			

「個別点検」 13-2 液晶ディスプレイ

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	スイッチ等の機能確認	キーボードの動作を確認する。 ・スペースキー、キャラクタ、ファンクションキー、割り込みキー、その他制御キーの確認。 ・ライトペンまたはマウスの動作確認。	○							装置の正常動作の確認、維持 標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	
2	電圧等の確認	チェック端子等により各部電圧の測定を行い基準値内であることを確認する。						○	電圧計、デジタルマルチメータ		
3	表示部の確認	輝度、色純度、画面位置サイズ調整、色ずれの確認をする。						○			
4	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタの接続状態等を確認する。						○			
5	機器本体の清掃等	ビュアの清掃及び機器外面の清掃をする。						○		周囲環境を考慮した機能維持	
		機器据え付け状態を確認する。						○			

「個別点検」 13-3 端末装置（ワークステーション、パーソナルコンピュータ）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考	
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月				
1	電圧等の確認	チェック端子等により各部の電圧を確認する。						○	電圧計、デジタルマルチメータ	装置の正常動作の確認、維持標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	必要とする装置のみ。	
2	電池の交換	バックアップ電池の交換周期を確認し、対象となるものは交換する。						○				
3	ハードディスクの確認	稼働時間、不良セクタの有無を確認する。						○				
4	動作確認	アプリケーションプログラムを動作させ、表示、キーボード入力、マウスの動作、LANによるデータの送受信機能等、総合動作を確認する。						○				
5	接続部の確認	コネクタ、プラグイン等の緩み及びヒューズの緩みを確認する。						○				
6	イベントログ (Windows 付属機能) の確認	OS機能のイベントログ (システム及びアプリケーション) を確認し、ハード異常やOS異常の兆候や発生を示すログが無いことを確認する。						○				OSがWindowsの場合
7	機器本体の清掃等	筐体内部の点検及び清掃をする。						○				周囲環境を考慮した機能維持
		ファンの点検及び清掃をする。						○				
		F/Dドライブヘッドのクリーニングをする。						○				
		ディスプレイ部の清掃をする。						○				
		ディスプレイ画面の清掃をする。						○				
		キーボードの点検及び清掃をする。						○				
		マウスの点検及び清掃をする。						○				
		異常音、異常温度の確認をする。						○				
		ランプの点灯状態を確認する。						○				
		摩耗部品の交換をする。						○				
		据付状態を確認する。						○				

「個別点検」 13-4 端末装置（LAN [ブリッジ・ルータ]）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	電池の交換	バックアップ電池の交換周期を確認し、対象となるものは交換する。							○	装置の正常動作の確認、維持 標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	
2	接続部の確認	ケーブル、コネクタ、端子等を点検し、緩み等のないことを確認する。							○		
3	機器本体の清掃等	機器本体外面の清掃をする。							○	周囲環境を考慮した機能維持	
		ファン、フィルタの清掃をする。							○		
		機器据付状態を確認する。							○		

「個別点検」 13-5 サーバ（ファイルサーバ、プリンタサーバその他）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	電圧等の確認	チェック端子等により電源電圧等を確認する。						○	電圧計、デジタルマルチメータ	装置の正常動作の確認、維持標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	必要とする装置のみ。
2	電池の交換	バックアップ電池の交換周期を確認し対象となるものは交換する。						○			
3	CRT表示部の確認	輝度及び色彩等を点検し異常の無いことを確認する。						○			
4	ハードディスクの確認	稼働時間、不良セクタの有無を確認する。						○			
5	停・復電時の機能確認	無停電電源装置との連動により停電検出、停電検出時のデータセーブ処理等が正常に行われることを確認する。						○			
		復電時の自動起動処理が正常に行われることを確認する。						○			
		ファイル保護機能、バックアップ機能等を確認する。						○			
6	動作確認	テストプログラム等によりサーバとしての動作を確認する。						○			
7	イベントログ (Windows 付属機能) の確認	OS機能のイベントログ (システム及びアプリケーション) を確認し、ハード異常やOS異常の兆候や発生を示すログが無いことを確認する。						○			OSがWindowsの場合
8	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタ、端子の接続状態、プラグインの緩み等を確認する。						○			
9	機器本体の清掃等	機器本体外面の清掃をする。						○		周囲環境を考慮した機能維持	
		キーボード、マウス等の確認及び清掃をする。						○			
		ファン、フィルタを清掃する。						○			
		機器据付状態を確認する。						○			

「個別点検」 13-6 CDT受信装置

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	電圧等の確認	自蔵計器またはチェック端子等により各部電圧等を測定する。						○	電圧計、デジタルマルチメータ	装置の正常動作の確認、維持 標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	
2	時計装置の確認	時計表示部の日付、時刻を確認する。						○			
3	信号レベル確認	受信レベルを測定し、基準値内であることを確認する。						○	レベルメータ		MODEMのUリンクにて確認。
4	データの確認	受信データを確認する。						○			
5	接続部の確認	コネクタ、端子等の接続部の確認をする。						○			
6	機器本体の清掃等	機器内外面の清掃をする。 機器据付状態を確認する。						○			周囲環境を考慮した機能維持

「個別点検」 13-7 CDT送信装置

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	電圧等の確認	自蔵計器またはチェック端子等により各電圧等を測定する。						○	電圧計、デジタルマルチメータ	装置の正常動作の確認、維持 標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	
2	信号レベル確認	送信レベルを測定し、規定値以内であることを確認する。						○	レベルメータ		
3	データの確認	送信データを確認する。						○			
4	接続部の確認	コネクタ、端子等の接続部の確認をする。						○			
5	機器本体の清掃等	機器内外面の清掃をする。 機器据付状態を確認する。						○			周囲環境を考慮した機能維持

「個別点検」 13-8 表示板（壁掛け式）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	電圧等の確認	自蔵計器またはチェック端子等により各部の電圧等を測定する。						○	電圧計、デジタルマルチメータ	装置の正常動作の確認、維持標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	
2	表示器の確認	ランプテストで確認をする。						○			
		データ表示ユニット（数値表示）及び表示ランプを点検し、正常であることを確認する。 警報音等の動作を点検し、正常であることを確認する。						○			
3	接続部の確認	ケーブル、コネクタ、端子等を点検し、緩み等のないことを確認する。						○			
4	機器本体の清掃等	機器外面の清掃をする。						○		周囲環境を考慮した機能維持	
		機器据付状態を確認する。						○			

「個別点検」 13-9 表示板（床据付式）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	電圧等の確認	自蔵計器またはチェック端子等により各部の電圧等を測定する。						○	電圧計、デジタルマルチメータ	装置の正常動作の確認、維持標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	
2	表示器の確認	ランプテストで確認をする。						○			
		データ表示ユニット（数値表示）及び表示ランプを点検し、正常であることを確認する。 警報音等の動作を点検し、正常であることを確認する。						○			
3	接続部の確認	ケーブル、コネクタ、端子等を点検し、緩み等のないことを確認する。						○			
4	機器本体の清掃等	機器内外面の清掃をする。						○		周囲環境を考慮した機能維持	
		機器据付状態を確認する。						○			

「個別点検」 13-10 ビデオプロジェクタ

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備 考
			毎日	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月	6 ヶ月	12 ヶ月			
1	投写の確認	輝度、色彩、スクリーン位置等を点検し、運用に支障の無い状態であることを確認する。							○	装置の正常動作の確認、維持 標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	
2	スイッチャの動作確認	入力信号を切り替えて映像が正常であることを確認する。							○		
3	スキャンコンバータの動作確認	ビデオ信号による映像が正常であることを確認する。							○		
4	スクリーンの動作確認	電動巻き上げ動作が正常であることを確認する。							○		外部投写型のみ対象。
5	リモコンの動作確認	ワイヤレスリモコンによる動作が正常であることを確認する。							○		必要とする装置のみ。
6	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態を確認する。							○		
7	機器本体の清掃等	機器本体内外面の清掃をする。							○	周囲環境を考慮した機能維持	
		投射レンズ及びスクリーン表面を清掃する。							○		外部投写型のみ対象。
		機器据付状態、緩み等のないことを確認する。							○		

「個別点検」 13-11 時計装置

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	電圧等の確認	自蔵計器またはチェック端子等により各電圧を確認する。						○	電圧計、デジタルマルチメータ	装置の正常動作の確認、維持標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	
2	電池の交換	バックアップ電池の交換周期を確認し、対象となるものは交換する。						○			
3	時刻の確認	親時計と子時計の時刻が、標準時計と合っていることを確認する。						○			
		FM放送受信状況が、正常であることを確認する。						○			
4	接続部の確認	ケーブル、コネクタ、端子等を点検し、緩み等のないことを確認する。						○			
5	機器本体の清掃等	機器本体外面の清掃をする。						○		周囲環境を考慮した機能維持	
		ファン、フィルタの清掃をする。						○			
		機器据付状態、緩みなどのないことを確認する。						○			

「個別点検」 13-12 分電盤

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	電圧等の確認	自蔵計器またはチェック端子により電源電圧等を確認する。						○	電圧計、デジタルマルチメータ	装置の正常動作の確認、維持標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	
2	復電起動用タイマの動作確認	復電起動を行い、タイマにより順次起動するか確認する。						○			順次起動用タイマを使用している分電盤のみ。
3	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタ、端子の接続状態を確認する。						○			
4	機器本体の清掃等	盤内外部の清掃をする。						○		周囲環境を考慮した機能維持	

「個別点検」 14-1 河川情報システム（通信制御装置/その他サーバ）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備 考	
			毎日	1 ヶ 月	2 ヶ 月	3 ヶ 月	6 ヶ 月	12 ヶ 月				
1	データの確認	観測したデータ内容を確認する。	○							装置の正常動作の確認、維持 標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握		
2	定数等の確認	各種の定数（演算定数・判定用定数等）が正しい値であることを定数系を用いて確認する。							○			
3	オフライン動作の確認	体制入力や観測局の保守・閉局等のオフライン動作が正常に機能することを確認する。							○			
4	スイッチ機能の確認	各スイッチ操作が正常に機能することを確認する。							○			
5	電圧等の測定	チェック端子等で各部電圧等を測定し、標準値以内であることを確認する。							○		電圧計、デジタルマルチメータ	インターフェース（電圧）を含む。
6	電池の交換	バックアップ電池の交換周期を確認し、対象となるものは交換する。							○			必要とする装置のみ。
7	レベル測定	送受信レベルを測定し、標準値以内であることを確認する。							○		レベル計	必要とする装置のみ。
8	接続部の確認	ケーブル、コネクタ、端子等を点検し、緩み等のないことを確認する。							○			
9	機器本体の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。							○		周囲環境を考慮した機能維持	
		据付状態、緩み等のないことを確認する。							○			
10	図書類・予備品等の確認	図書類が整理・保管されていること及び予備品類の保管状態、数量等を確認する。							○		障害時の備え	

「個別点検」 14-2 河川情報システム（分岐切替装置）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備 考
			毎 日	1 ヶ 月	2 ヶ 月	3 ヶ 月	6 ヶ 月	12 ヶ 月			
1	電圧等の測定	チェック端子等で各部電圧等を測定し、標準値以内であることを確認する。						○	電圧計、デジタルマルチメータ	装置の正常動作の確認、維持 標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	必要とする装置のみ。
2	レベルの測定	入出力信号レベルを測定し、標準値以内であることを確認する。						○	レベル計、シンクロスコープ		
3	切替動作の確認	正常に切替が行われることを確認する。						○			
4	接続部の確認	ケーブル、コネクタ、端子等を点検し、緩み等のないことを確認する。						○			
5	機器本体の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。						○			
		据付状態、緩み等のないことを確認する。						○			

「個別点検」 14-3 統一河川情報システム サーバ

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	データの確認	観測したデータ内容を確認する。	○							装置の正常動作の確認、維持 標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握 インターフェース（電圧）を含む。 必要とする装置のみ。	
2	定数等の確認	各種の定数（演算定数・判定用定数等）が正しい値であることを定数系を用いて確認する。						○			
3	オフライン動作の確認	体制入力や観測局の保守・閉局等のオフライン動作が正常に機能することを確認する。						○			
4	運用管理系の状態確認	運用管理系の画面から統一河川情報システムの全体動作の状況を確認する。						○			
5	電圧等の測定	チェック端子等で各部電圧等を測定し、標準値以内であることを確認する。						○	電圧計、デジタルマルチメータ		
6	電池の交換	バックアップ電池の交換周期を確認し、対象となるものは交換する。						○			
7	接続部の確認	ケーブル、コネクタ、端子等を点検し、緩み等のないことを確認する。						○			
8	機器本体の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。 据付状態、緩み等のないことを確認する。						○			
9	図書類・予備品等の確認	図書類が整理・保管されていること及び予備品類の保管状態、数量等を確認する。						○		障害時の備え	

「個別点検」 14-4 統一河川情報システム 負荷分散装置

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	負荷分散状態の確認	負荷分散装置のログから設定された内容で負荷分散をしていることを確認する。						○		装置の正常動作の確認、維持 標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握 周囲環境を考慮した機能維持	
2	機器本体の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。 据付状態、緩み等のないことを確認する。						○			

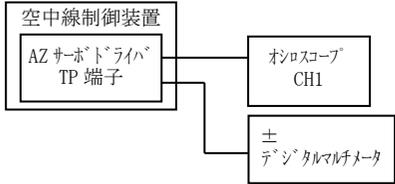
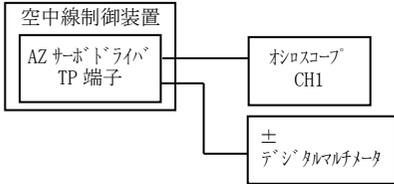
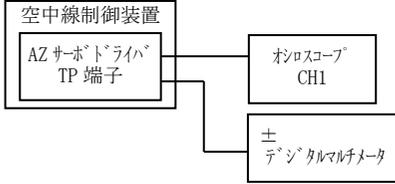
「個別点検」 15-1 レドーム（レーダ局）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備 考
			毎日	1 ヶ 月	2 ヶ 月	3 ヶ 月	6 ヶ 月	12 ヶ 月			
1	外観構造確認	コーキング材の劣化状態を確認する。					○			周囲環境を考慮した機能維持	
		雨漏りの有無を確認する。					○				
		塗装の状態を確認する。					○				
		ボルトの緩みを確認する。						○			
		除雪ロープの状態を確認する。						○			
2	避雷針の接地抵抗確認	避雷針の接地抵抗を測定し確認する。						○	接地抵抗計	標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	

「個別点検」 15-2 空中線装置（レーダ局）（導波管加圧装置及び安全開閉器含む）

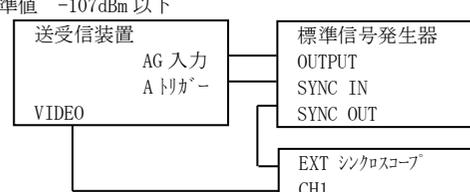
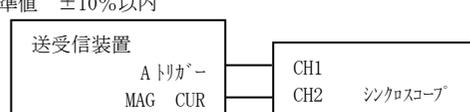
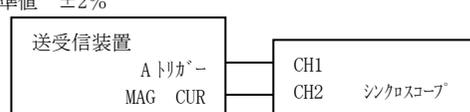
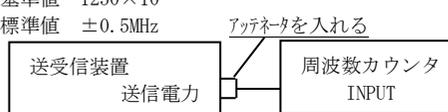
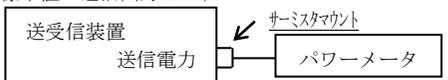
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	スイッチ類の確認	安全スイッチの確認及びレドームシャッタ等との連携を確認する。 遠隔操作スイッチによる確認をする。				○			装置の正常動作の維持 標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	総合動作確認で代用 必要に応じブラシ交換	
2	駆動モータ確認及び清掃	ブラシ、整流子、ブラシホルダ確認及び清掃をする。 電磁ブレーキの確認をする。 モータ温度を測定し、正常であることを確認する。 （減速機含む）				○		ノギス、温度計またはサーモラベル			
3	角度検出機構確認	レゾルバーを確認する。 ギヤ部の確認及び給脂を行う。				○					
4	伝達機構確認及び給脂、給油	主ギヤ部、減速ギヤ部の確認及び給脂、給油をする。 回転軸受、歯車等の確認及び給脂をする。				○					
5	潤滑油等の確認	各機構部の潤滑油交換をする。					○				必要に応じ潤滑油交換
6	ロータリージョイント部の確認	導波管、ロータリージョイント部の異音、その他異常がないか確認する。				○					
7	スリップリング及びブラシの確認清掃	リング面の確認及び清掃をする。 ブラシの状態を確認する。				○					必要に応じブラシ交換
8	架台の水平レベルの確認	反射板を 360° 回転させた時の水準器の目盛りを読取り確認する。					○				
9	リミットスイッチの動作確認	空中線のEL系を操作し、スイッチの動作する角度を確認する。				○					
10	空中線仰角の確認	AZ目盛り0°にして、反射板上部から降り下げを吊して、反射板下部と吊り糸との間隔が0mmになった時、EL目盛り板の指示値を確認する。					○				固定仰角運用の使用のみ
11	アンテナヒータ、モータヒータの確認	電源投入後、温度上昇となるか確認する。				○					寒冷地使用のみ
12	動作状況の確認	空中線駆動時の発生音、におい等に異常がないか確認する。				○					
13	導波管の取付け及び気密の確認	導波管取付け状態の確認をする。 導波管加圧装置の動作を確認する。 圧力指示を確認する。 標準値 上限 300±20g/cm ² 下限 20±20g/cm ² MAIN表示灯の確認をする。 乾燥タンク内の乾燥剤を確認する。 動作回数計指示値を確認する。 保護機構の確認をする。 エアフィルタの清掃をする。					○	ストップウォッチ			必要に応じ乾燥剤交換
14	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタ、端子の接続状態の確認をする。					○				
15	機器本体の清掃等	錆、塗装等の状態を確認する。 機器本体の内外面を清掃する。 機器据付状態の確認をする。					○		周囲環境を考慮した機能維持		

「個別点検」 15-3 空中線制御装置（レーダ局）

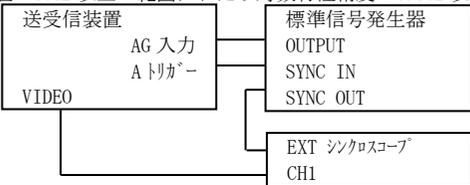
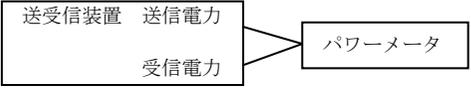
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	電圧等の確認	チェック端子により各部電圧等の測定を行い、標準値内であることを確認する。 標準値 AC入力電圧±3% DC出力電圧±10%				○			電圧計、デジタルマルチメータ	標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	
2	空中線回転速度の確認	空中線の回転速度を測定し、標準値内であることを確認する。 標準値 ±5%				○			ストップウォッチ	装置の正常動作の維持 標準値との照合	
3	A Z速度信号波形の確認	サーボドライバ内点検端子にて測定し確認する。 						○	電圧計、デジタルマルチメータ、オシロスコープ	測定結果の変化傾向の把握	
4	A Z角度精度の確認	AZCOMMAND スイッチにより角度信号を入力し、空中線角度が標準値内で一致していることを表示器により確認する。 標準値 0.1° 以内 						○	電圧計、デジタルマルチメータ、オシロスコープ		
5	E L速度信号波形の確認	サーボドライバ内点検端子にて測定し確認する。						○	電圧計、デジタルマルチメータ、オシロスコープ		
6	E L角度精度の確認	ELCOMMAND スイッチにより角度信号を入力し、空中線角度が標準値内で一致していることを表示器により確認する。 標準値 0.1° 以内 						○			
7	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタ、端子の接続状態を確認する。						○			
8	機器本体の清掃等	ファンモジュールの確認及び清掃をする。						○		周囲環境を考慮した機能維持	
		機器本体の内外面を清掃する。						○			
		機器据付状態の確認をする。						○			

「個別点検」 15-4 送受信装置（レーダ局）（1/2）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	電圧等の確認	チェック端子により各部電圧等の測定を行い標準値内であることを確認する。 標準値 AC入力電圧±3% DC出力電圧±10%				○			電圧計、デジタルマルチメータ	標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	
2	送信出力確認	電力計にて、平均電力を測定し、これにより算出を行い規格値内であることを確認する。 基準値 送信出力+20%～50% 標準値 送信出力±10%				○			パワーメータ	装置の正常動作の維持 標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	
3	送信周波数確認	電力計と直列に波長計または周波数カウンターを接続して周波数測定を行い規格値内であることを確認する。 基準値 1250×10^6 標準値 ±0.5MHz				○			波長計、周波数カウンター		
4	トリガーパルス確認	基準トリガーと送信トリガーの間隔をシンクロスコープにて測定を行い標準値内であることを確認する。 標準値 ±2%					○		シンクロスコープ		
5	送信パルス幅確認	送信パルス幅をシンクロスコープにて測定を行い標準値内であることを確認する。 標準値 ±10%以内					○		シンクロスコープ		
6	受信機感度確認	S/G置換により受信機感度の測定を行い標準値内であることを確認する。 標準値 -107dBm以下					○		標準信号発生器、パルスジェネレータ、オシロスコープ		



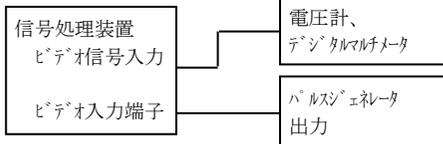
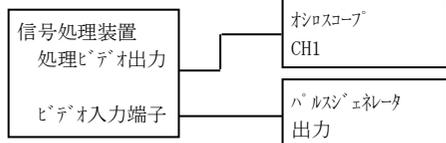
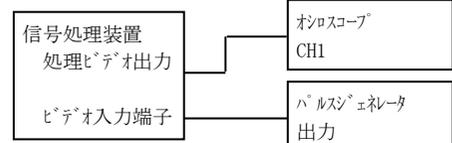
「個別点検」 15-4 送受信装置（レーダ局）（2/2）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備 考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
7	受信機特性確認	<p>動作監視部の試験操作により受信機の実験特性試験を行い標準値内であることを確認する。</p> <p>S/G置換により受信機特性の測定を行い標準値内であることを確認する。</p> <p>標準値 60dB以上の範囲にわたり対数特性精度±0.5dB以下</p> 				○			標準信号発生器、オシロスコープ、電圧計、デジタルマルチメータ	装置の正常動作の維持 標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	
8	AFC系の確認	送信周波数を変化させた時、AFC機能が正常に動作することを確認する。				○			周波数カウンタ、波長計		
9	動作表示及び警報用センサ状況確認	各警報用センサ及び表示灯等の動作確認をする。					○				
10	自蔵計器による確認	各部の電圧/電流を自蔵計器により確認する。				○			自蔵計器		
11	TRリミッタの損失確認	TRリミッタの損失レベルを測定し標準値内であることを確認する。				○					
12	VSWRの確認	<p>VSWRの測定を行い規格値内であることを確認する。</p> <p>標準値 1.4B以下</p> 					○		パワーメータ		
13	マグネトロン等の確認	マグネトロンはメータリングデータ、使用時間等の動作状況を確認し交換する。				○					必要に応じマグネトロン交換。
		サイラトロン及びTRリミッタは使用時間により交換する。				○					必要に応じサイラトロン及びTRリミッタ交換。 期待寿命は2年以上
14	クライストロン等の確認	クライストロンはメータリングデータ、使用時間等の動作状況を確認して交換する。					○				
15	クライストロンのフォーカスコイル冷却機能の確認	クライストロンの冷却機能が正常に動作していることを風圧により確認する。					○				
16	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタ、端子の接続状態を確認する。						○			
17	機器本体の清掃等	ファンモジュールの確認及び清掃をする。						○		周囲環境を考慮した機能維持	
		機器本体の内外面を清掃する。						○			
		機器据付状態の確認をする。						○			

「個別点検」 15-5 レーダ動作監視装置（レーダ局）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考	
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月				
1	送信出力モニタ動作試験	送信電力を電力計でモニタした状態で電力を±10%変化させ、この時に送信電力異常が出ることを確認する。				○			パワーメータ	装置の正常動作の維持 標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	クライストロンの場合は不要	
2	AFCモニタ動作試験	AFCスイッチを手動にした状態でチューニングメータを観測しながら送信周波数を±0.5MHz変化させ、この時に送信周波数偏差アラームがでることを確認する。				○			波長計、周波数カウンタ			
3	パルスミッシング検出動作試験	送信状態で局部制御器のHVADJを0にしてこの時パルスミッシングを検出することを確認する。				○						
4	マグネトロン電流モニタ動作試験	マグネトロン電流を初期値I ₀ ±15%にしたとき、MAGCURアラームを検出することを確認する。				○						クライストロンの場合はクライストロン電流
5	ミキサ電流モニタ動作試験	AFCMIXまたはSIGMIXの入力を外したときMIXCURアラームを検出することを確認する。				○						
6	送信機過負荷動作試験	過負荷検出用リレーを手動により擬似的に動作させ、この時にマグネトロン過負荷を表示することを確認する。				○						
7	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタ、端子の接続状態の確認をする。							○			
8	機器本体の清掃等	ファンモジュールの確認及び清掃をする。						○		周囲環境を考慮した機能維持		
		機器本体の内外面を清掃する。						○				
		機器据付状態の確認をする。						○				

「個別点検」 15-6 信号処理装置（レーダ局）（1/2）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	電圧等の確認	チェック端子により各部電圧等の測定を行い、標準値内であることを確認する。 標準値 AC入力電圧±3% DC出力電圧±10%					○		電圧計、デジタルマルチメータ	装置の正常動作の維持 標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	
2	トリガー系の確認	基本トリガーより受信ビデオのディレイ時間を測定し、標準値内であることを確認する。					○		オシロスコープ		
3	A/D入出力特性確認	内部電源またはパルスジェネレータよりDC信号入力し、A/Dコンバータ出力にて入出力特性の直線性を測定し、標準値内であることを確認する。 					○		パルスジェネレータ		
4	距離補正值の確認	パルスジェネレータによりDC信号を入力し、距離補正後のデータを測定し標準値内であることを確認する。 標準値 $1/r^2$ とし、大気ガス減衰補正を含むものとする。 					○		パルスジェネレータ、電圧計、デジタルマルチメータ		
5	距離平均確認	パルス変調した波形を入力し、距離平均後の電圧波形を測定し、標準値内であることを確認する。 標準値 1.5km 					○		オシロスコープ、パルスジェネレータ		
6	方位平均確認	パルス変調した波形を入力し、方位平均後の電圧波形を測定し、標準値内であることを確認する。 標準値 9ヒット 					○				

「個別点検」 15-6 信号処理装置（レーダ局）（2/2）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考	
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月				
7	MTI処理機能の確認	パルス変調した波形を入力し、MTI処理機能を測定し、標準値内であることを確認する。 標準値 20dB以上 						○	オシロスコープ、パルスジェネレータ	装置の正常動作の維持 標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握		
8	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタ、端子の接続状態を確認する。								○		
9	機器本体の清掃等	ファンモジュールの確認及び清掃をする。						○		周囲環境を考慮した機能維持		
		機器本体の内外面を清掃する。						○				
		機器据付状態の確認をする。						○				

「個別点検」 15-7 指示装置（レーダ局）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備 考
			毎日	1ヶ 月	2ヶ 月	3ヶ 月	6ヶ 月	12ヶ 月			
1	パネルスイッチによる動作試験	各スイッチによる操作及び表示器が正常に動作する事を確認する。						○		装置の正常動作の維持	
2	電圧等の確認	チェック端子により各部電圧等の測定を行い、標準値内であることを確認する。 標準値 AC 入力電圧±3% DC 出力電圧±10%						○	電圧計、デジタルマルチメータ	標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	
3	真円性の確認及び調整	各方位の最終マーカと中心点の間隔を測定し、各レンジにおいて誤差が2%以内であることを確認する。						○		装置の正常動作の維持 標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	
4	固定目標の方位及び距離確認	任意の目標を選定して、方位、名称、距離を測定し、標準値内であることを確認する。						○	オシロスコープ		
5	マーカライン等の表示試験	ノースマークが0°に表示すること及びレンジマークが等間隔であることを確認する。						○			
6	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタ、端子の接続状態を確認する。							○		
7	機器本体の清掃等	ファンモジュールの確認及び清掃をする。						○		周囲環境を考慮した機能維持	
		機器本体の内外面を清掃する。						○			
		機器据付状態の確認をする。						○			

「個別点検」 15-8 収集処理装置（レーダ局）（入出力コンソール含む）

No.	点検項目	点検内容及び判定基準等	点検周期						使用測定器等	点検の目的等	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	操作部スイッチ機能の確認	各スイッチ類による機能の確認をする。						○		装置の正常動作の維持	
2	電圧等の確認	チェック端子により各部電圧等の測定を行い標準値内であることを確認する。 標準値 AC 入力電圧±3% DC 出力電圧±10%						○	電圧計、デジタルマルチメータ	標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	
3	電池の交換	バックアップ電池の交換周期を確認し、対象となるものは交換する。							○	装置の正常動作の維持 標準値との照合	必要となる装置のみ。
4	自動再起動の動作確認	停電復旧後、自動的にシステムが再起動することを確認する。							○	測定結果の変化傾向の把握	
5	入出力コンソール部の動作確認	キーボードの動作確認及び表示の確認をする。						○			必要となる装置のみ。
		ディスプレイ部の輝度、画面位置サイズなどの確認をする。						○			
		プリンタ部の動作確認、オフラインで全文字印字し、文字乱れの有無確認、紙送り動作、リボン送り動作の確認をする。						○			
6	テストプログラムによる動作確認	テストプログラムにより動作が正常であることを確認する。							○		
7	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタ、端子の接続状態の確認をする。							○		
8	機器本体の清掃等	ファンモジュールの確認及び清掃をする。							○		周囲環境を考慮した機能維持
		機器本体の内外面を清掃する。							○		
		機器据付状態の確認をする。							○		

「個別点検」 15-9 入出力装置（レダ局）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備 考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	電圧等の確認	チェック端子により各部電圧等の測定を行い、標準値内であることを確認する。 標準値 AC入力電圧±3% DC出力電圧±10%					○		電圧計、デジタルマルチメータ	装置の正常動作の維持 標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	
2	制御機能の確認	制御信号によって各装置の制御が正しく行われることを確認する。					○				
3	監視機能の確認	各装置からのアラーム入力できることを確認する。					○				
4	時計装置の確認	各スイッチの操作を行い機能が正常であることを確認する。					○				
		時計表示が時報と合致していることを確認する。					○				
5	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタ、端子の接続状態を確認する。						○			
6	機器本体の清掃等	ファンモジュールの確認及び清掃をする。						○		周囲環境を考慮した機能維持	
		機器本体の内外面を清掃する。						○			
		機器据付状態の確認をする。						○			

「個別点検」 15-10 レーダ電源制御装置（レーダ局）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	電圧等の確認	チェック端子により各部電圧等の測定を行い基準値内であることを確認する。 標準値 AC 入力電圧±3% DC 出力電圧±10%					○		電圧計、デジタルマルチメータ	標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	
2	復電起動の動作確認	復電後、各装置に電源が供給できることを確認する。						○		装置の正常動作の維持 標準値との照合	
3	EMERGENCY スイッチの確認	EMERGENCY スイッチを押すことにより分電盤のメインブレーカがトリップすることを確認する。						○		測定結果の変化傾向の把握	
4	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタ、端子の接続状態を確認する。						○			
5	機器本体の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。						○		周囲環境を考慮した機能維持	
		機器据付状態の確認をする。						○			

「個別点検」 15-11 通信接続装置Ⅱ (処理局)

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	電圧等の確認	チェック端子により各部電圧等の測定を行い標準値内であることを確認する。 標準値 AC入力電圧±3% DC出力電圧±10%					○	電圧計、デジタルマルチメータ	標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握		
2	インターフェースデータ受渡動作試験	レーダステータス用の発光ダイオードの表示が、各項目別に正常に表示されることを確認する。					○		装置の正常動作の維持		
3	信号レベルの確認	各信号の入出力レベルの測定を変復調装置にてを行い、標準値内であることを確認する。					○	レベルメータ	装置の正常動作の維持 標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握		
4	時計装置の確認	各スイッチの操作を行い、機能が正常であるか確認する。 時計表示が時報と合致していることを確認する。					○				
5	バックアップバッテリーの交換	定期的にバッテリー交換を実施する。					○			定期交換周期 2～3年	
6	自動再起動の確認	停電及び復電を行い、動作に異常がないことを確認する。					○				
7	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタ、端子の接続状態を確認する。					○				
8	機器本体の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					○		周囲環境を考慮した機能維持		
		機器据付状態の確認をする。					○				

「個別点検」 15-12 動作監視装置 (処理局)

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	アラーム出力モニタ動作試験	表示基板の中にセットされている発光ダイオードがアラーム項目別に点灯することを確認する。					○		装置の正常動作の維持		
2	遠隔制御動作試験	制御局からのリモート操作にて正常に動作することを確認する。					○				
3	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタ、端子の接続状態を確認する。					○				
4	機器本体の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					○		周囲環境を考慮した機能維持		
		機器据付状態の確認をする。					○				

「個別点検」 15-13 動作制御装置 (処理局)

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	電圧等の確認	チェック端子により各部電圧等の測定を行い標準値内であることを確認する。 標準値 AC 入力電圧±3% DC 出力電圧±10%					○		電圧計、デジタルマルチメータ	標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	
2	表示機能確認	各種表示灯の機能が正常であることを確認する。					○			装置の正常動作の維持	
3	制御機能確認	各スイッチにより遠隔制御操作を行い各機能とも正常に動作することを確認する。					○			装置の正常動作の維持 標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	
4	受信機総合特性試験及びシステムテスト	制御局から遠方制御にて受信機受信特性及び対数増幅器の直線性の確認及びシステムテストをする。					○				
5	信号レベルの確認	制御信号レベルの測定を行い規格値内であることを確認する。					○		レベルメータ		
6	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタ、端子の接続状態を確認する。						○			
7	機器本体の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					○			周囲環境を考慮した機能維持	
		機器据付状態の確認をする。					○				

「個別点検」 15-14 高輝度PPI装置 (処理局)

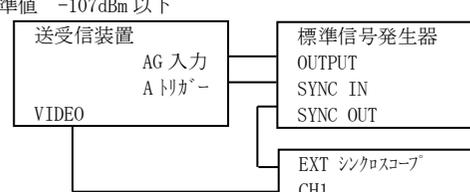
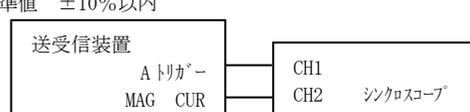
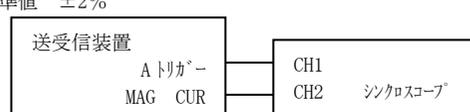
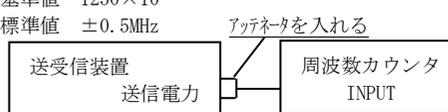
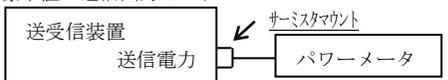
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	表示部及びスイッチ類の機能確認	各スイッチの操作により機能が正常であることを確認する。					○		装置の正常動作の維持	データ記録装置等に代替えしていく方向。	
2	電圧等の確認	チェック端子により各部電圧等の測定を行い標準値内であることを確認する。 標準値 AC 入力電圧±3% DC 出力電圧±10%					○	電圧計、デジタルマルチメータ	標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握		
3	ブラウン管エミ減の確認	輝度調整ボリューム、フォーカス調整、ボリューム等によりエミ減の確認をする。					○		装置の正常動作の維持 標準値との照合	必要とする装置のみ。	
4	データ更新の確認	時刻及びデータの表示が1分毎に更新される事を確認する。					○		測定結果の変化傾向の把握		
5	テストによる動作確認	テストにより動作が正常であることを確認する。					○				
6	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタ、端子の接続状態を確認する。						○			
7	機器本体の清掃等	PPI画面、機器本体の内外面を清掃する。					○		周囲環境を考慮した機能維持		
		機器据付状態の確認をする。					○				

「個別点検」 15-15 解析処理装置・データ記録装置

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	パラメータ等の確認	レーダ雨（雪）量計で使用する演算パラメータの確認をする。						○		装置の正常動作の維持 標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	必要とする装置のみ。
2	電圧等の確認	チェック端子により各部電圧等の測定を行い標準値内にあることを確認する。						○	電圧計、デジタルマルチメータ		
3	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタ、端子の接続状態プラグインの緩み等を確認する。							○		
4	機器本体の清掃等	筐体内部の確認及び清掃をする。						○		周囲環境を考慮した機能維持	
		ファン、フィルタの清掃をする。						○			
		ディスプレイ画面の清掃をする。						○			
		キーボードの確認及び清掃をする。						○			
		マウスの確認及び清掃をする。						○			
		異常音、異常温度の確認をする。						○			
		摩耗部品の交換をする。						○			
機器据付状態の確認をする。						○					
5	図書類・予備品等の確認	図書類が整理・保管されていること及び予備品類の保管状態、数量等を確認する。						○		障害時の備え	

「個別点検」 15-16 送受信装置（レーダ局：新スプリアス規格準拠）（1/2）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	電圧等の確認	チェック端子により各部電圧等の測定を行い標準値内であることを確認する。 標準値 AC入力電圧±3% DC出力電圧±10%				○			電圧計、デジタルマルチメータ	標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	
2	送信出力確認	電力計にて、平均電力を測定し、これにより算出を行い規格値内であることを確認する。 基準値 送信出力+20%～50% 標準値 送信出力±10%				○			パワーメータ	装置の正常動作の維持 標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	
3	送信周波数確認	電力計と直列に波長計または周波数カウンターを接続して周波数測定を行い規格値内であることを確認する。 基準値 1250×10^6 標準値 ±0.5MHz				○			波長計、周波数カウンター		
4	トリガーパルス確認	基準トリガーと送信トリガーの間隔をシンクロスコープにて測定を行い標準値内であることを確認する。 標準値 ±2%						○		シンクロスコープ	
5	送信パルス幅確認	送信パルス幅をシンクロスコープにて測定を行い標準値内であることを確認する。 標準値 ±10%以内						○		シンクロスコープ	
6	受信機感度確認	S/G置換により受信機感度の測定を行い標準値内であることを確認する。 標準値 -107dBm以下						○		標準信号発生器、パルスジェネレータ、オシロスコープ	



「個別点検」 15-16 送受信装置（レーダ局：新スプリアス規格準拠）（2/2）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備 考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
7	受信機特性確認	<p>動作監視部の試験操作により受信機の実験特性試験を行い標準値内であることを確認する。</p> <p>S/G置換により受信機特性の測定を行い標準値内であることを確認する。</p> <p>標準値 60dB以上の範囲にわたり対数特性精度±0.5dB以下</p>				○			標準信号発生器、オシロスコープ、電圧計、デジタルマルチメータ	装置の正常動作の維持 標準値との照合 測定結果の変化傾向の把握	
8	AFC系の確認	送信周波数を変化させた時、AFC機能が正常に動作することを確認する。				○			周波数カウンタ、波長計		
9	動作表示及び警報用センサ状況確認	各警報用センサ及び表示灯等の動作確認をする。					○				
10	自蔵計器による確認	各部の電圧/電流を自蔵計器により確認する。				○			自蔵計器		
11	TRリミッタの損失確認	TRリミッタの損失レベルを測定し標準値内であることを確認する。				○					
12	VSWRの確認	<p>VSWRの測定を行い規格値内であることを確認する。</p> <p>標準値 1.4B以下</p>					○		パワーメータ		
13	マグネトロン等の確認	<p>マグネトロンはメータリングデータ、使用時間等の動作状況を確認し交換する。</p> <p>サイラトロン及びTRリミッタは使用時間により交換する。</p>					○			必要に応じマグネトロン交換。	
14	クライストロン等の確認	クライストロンはメータリングデータ、使用時間等の動作状況を確認して交換する。					○			必要に応じサイラトロン及びTRリミッタ交換。	期待寿命は2年以上
15	クライストロンのフォーカスコイル冷却機能の確認	クライストロンの冷却機能が正常に動作していることを風圧により確認する。					○				
16	不要輻射強度確認	<p>スペクトラムアナライザ等で測定し基準値内であることを確認する。</p> <p>帯域外領域：基本波の平均電力より40dBc以下</p> <p>スプリアス領域：基本波の平均電力より60dBc以下</p>						○			
17	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタ、端子の接続状態を確認する。						○			
18	機器本体の清掃等	<p>ファンモジュールの確認及び清掃をする。</p> <p>機器本体の内外面を清掃する。</p> <p>機器据付状態の確認をする。</p>						○		周囲環境を考慮した機能維持	

「個別点検」 16-1 ダム情報処理装置、ダム放流設備制御装置

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	CPU使用率の点検	ステータスマニタソフト等により、CPU使用率を前回点検時データと比較し、極端な変化の有無を点検する。								システムに発生する可能性がある障害の未然防止のための点検である。	測定が可能な装置のみ実施
2	ネットワークの点検	OA-LANについて、システムに残っているログ情報の確認やLANアナライザでダムコン内ネットワークの負荷を測定し、ネットワークの異常の有無や負荷状況が適切かどうかを点検する。(通常は10%程度以下)								システムに発生する可能性がある障害の未然防止のための点検である。	ON-LANネットワークがあるダム・頭首工のみ実施
3	メモリー使用量の点検	ステータスマニタソフト等により、メモリー使用量を確認し、前回点検時データと比較して、メモリーが異常に使用されていないかどうかを点検する。(メモリーリークの有無)								システムに発生する可能性がある障害の未然防止のための点検である。	測定が可能な装置のみ実施
4	図書類・予備品等の確認	整理・保管されていること及び予備品等の保管状態、数量等を確認する。								障害時の備え	

「個別点検」 16-2 入出力インターフェース装置

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	電圧等の測定	自蔵計器またはチェック端子により各部の電圧を確認する。					○	電圧計、デジタルマルチメータ	経年変化による動作不安定を未然に防止する。		
2	伝送レベル測定	レベル計により入出力レベル測定。					○	レベル計	標準値(導入時)との照合を行い、経年変化を把握する。		
3	接続部の点検	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の点検。					○		接触部分の点検、接点部の接触不良に起因する障害を未然に防止する。		
4	機器本体の点検	機器外面の清掃。	○							塵埃の除去により装置内部への混入を防ぐ。	
		機器内部の清掃。						○		塵埃の除去による性能の維持。	
		ファンの動作確認。	○							ファン故障による内部温度上昇を事前に防止する。	
		エアフィルタの清掃、ファンの清掃。						○		目詰まりによる内部温度上昇を事前に防止する。 ファン故障による内部温度上昇を事前に防止する。	
		機器据付状態の確認。							○		取付金具の緩み等による事故の防止。

「個別点検」 16-3 入出力中継装置

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	電圧等の測定	自蔵計器またはチェック端子により各部の電圧を確認する。					○	電圧計、デジタルマルチメータ	経年変化による動作不安定を未然に防止する。		
2	保安器、避雷器の点検確認	発熱、変色の有無確認。					○		保安器、避雷器の異常の有無を点検し、損傷を早期に発見、修復することにより障害の発生を未然に防止する。		
3	補助継電器の確認	発熱、変色の有無確認。						○	補助継電器の接点等の異常の有無を点検し、接触不良等による障害を未然に防止する。		
4	接続部の点検	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の点検。						○	接触部分の点検、接点部の接触不良に起因する障害を未然に防止する。		
5	機器本体の点検	機器外面の清掃。	○							塵埃の除去により装置内部への混入を防ぐ。	
		機器本体の内部の清掃。							○	塵埃の除去による性能の維持。	
		機器据付状態の確認。							○	取付金具の緩み等による事故の防止。	

「個別点検」 16-4 遠方手動操作卓（監視制御卓）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考	
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月				
1	各スイッチ等の確認	保護機能確認。						○		押しボタンスイッチの保護カバー、キースwitchの破損の有無点検。		
2	電圧等の測定	自蔵計器またはチェック端子により各部の電圧を確認する。						○	電圧計、デジタルマルチメータ	経年変化による動作不安定を未然に防止する。		
3	各部表示器の点検、確認	ランプテスト	○									
4	接続部の点検	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の点検。							○	誤操作防止のための保護機能が正しく動作することを確認する。		
5	機器本体の点検	機器外面の清掃。	○								塵埃の除去により装置内部への混入を防ぐ。	
		機器内部の清掃。								○	塵埃の除去による性能の維持。	
		機器据付状態の確認。								○	取付金具の緩み等による事故の防止。	

「個別点検」 16-5 情報処理操作卓／表示設定操作卓

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	各スイッチ等の確認	保護機能確認。						○		押しボタンスwitchの保護カバー、キースwitchの破損の有無点検。	
2	電圧等の測定	自蔵計器またはチェック端子により各部の電圧を確認する。						○	電圧計、デジタルマルチメータ	経年変化による動作不安定を未然に防止する。	
3	各部表示器の点検、確認	ランプテスト	○								
4	接続部の点検	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の点検。							○	接触部分の点検、接点部の接触不良に起因する障害を未然に防止する。	
5	機器本体の点検	機器外面の清掃。	○							塵埃の除去により装置内部への混入を防ぐ。	
		機器内部の清掃。							○	塵埃の除去による性能の維持。	
		機器据付状態の確認。							○	取付金具の緩み等による事故の防止。	

「個別点検」 16-6 試験装置（訓練装置）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	電圧等の測定	自蔵計器またはチェック端子により各部の電圧を確認する。							電圧計、デジタルマルチメータ	経年変化による動作不安定を未然に防止する。	
2	接続部の点検	接続ケーブル、プラグイン、コネクタ及び端子の接続状態の点検。							○	接触部分の点検、接点部の接触不良に起因する障害を未然に防止する。	
3	機器本体の点検	機器外面の清掃。	○							塵埃の除去により装置内部への混入を防ぐ。	
		機器据付状態の確認。							○	取付金具の緩み等による事故の防止。	

「個別点検」 16-7 記録計（アナログ式）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	機構部点検及び注油	取付状態の確認。	○							機構部が円滑に動作するよう点検及び注油を行う。	
		機構部分の注油					○				
2	記録状態の確認。	フルスケールに対し5点確認。								フルスケールの0, 25, 50, 75, 100%に相当する試験電圧を与え記録計の動作及び精度を確認する。	
3	各接続部の点検。	コネクタ、端子等の接続状態の点検。								接触部分の点検、接点部の接触不良に起因する障害を未然に防止する。	
4	機器本体の点検	装置、記録部、記録紙収納部の汚損等がないか確認。	○							ペン送り機構、記録紙送り機構等が円滑に動作するよう機構部、記録部、記録紙収納部の清掃を行う。	
		記録状態の確認。 カスレ、インクの出すぎ等がないか点検。	○							ペンの記録状態を点検し、カスレ等がある場合はペンの清掃インクの補充等を行う。	

「個別点検」 16-8 水位計（デジタル、アナログ式）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考	
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月				
1	端子盤等の点検	端子盤の端子の緩み点検。							○	端子盤の端子部及びアレスタを点検し、接続の緩み、損傷等に起因する障害の発生を未然に防止する。		
		アレスタ動作電圧の確認。							○			試験電圧発生器、アレスタ試験装置
2	A/D変換器等の校正	センサとA/Dコンバータ等の連動動作を確認。								○	水位の検出機構とA/Dコンバータの連動試験によりカップリング部分等に異常のないことを確認する。	
		ビットチェック。(000~999の各桁を10ステップ確認)								○		
3	自記録計の点検	記録計のインク補充、記録紙の交換。	○								自記録計を点検しインク、記録紙を補充する。	
4	接続部の点検	コネクタ、プラグイン、端子等の接続状態の点検。								○	水位計本体端子部等接触部分の点検、接点部の接触不良に起因する障害発生を未然に防止する。	
5	機器本体の点検	機器内外面の清掃。 発錆、腐食等についても点検する。						○			塵等の除去により装置内部への混入を防ぎ、塵埃に起因する障害発生を未然に防止する。	
		機器据付状態の確認。							○		取付金具の緩み等による事故の防止。	

「個別点検」 16-9 開度計

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	端子盤等の点検	端子盤の端子のゆるみ点検。						○		端子盤の端子部及びアレスタを点検し、接続の緩み、損傷等に起因する障害の発生を未然に防止する。	
		アレスタ動作電圧の確認。						○	試験電圧発生器、アレスタ試験装置		
2	A/D変換器等の校正	ゲート開度検出機構とA/Dコンバータ等の連動動作を確認する。						○		開度の検出機構とA/Dコンバータの連動試験によりカップリング部分等に異常のないことを確認する。	
		ビットチェック。(全桁)						○		A/Dコンバータ出力のBCD符号構成に異常のないことを確認する。	
3	接続部の点検	コネクタ、プラグイン、端子等の接続状態の点検。					○		開度計本体端子部等接触部分の点検、接点部の接触不良に起因する障害発生を未然に防止する。		
4	機器本体の点検	機器内外面の清掃。 発錆、腐食等についても点検する。					○		塵等の除去により装置内部への混入を防ぎ、塵埃に起因する障害発生を未然に防止する。		
		機器据付状態の確認。					○		取付金具の緩み等による事故の防止。		

「個別点検」 16-10 分岐切替装置

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	電圧等の測定	自蔵計器またはチェック端子により各部の電圧を確認する。					○	電圧計、デジタルマルチメータ	経年変化による動作不安定を未然に防止する。		
2	切替機能の確認	各種切替信号を発生させて、各切替機能を確認。						○		分岐切替装置の以下の機能を確認する。 (1) プリンタ等出力の演算処理装置Ⅰ系、Ⅱ系の接続切替機能の確認。 (2) 試験装置を用いてゲート操作指令の手動←→半自動・自動切替機能を確認。 (3) 実操作と試験の切替機能の確認	
3	アナログ入出力部	フルスケールに対し5点(0, 25, 50, 75, 100%)を確認。						○	デジタル電圧計、標準電圧発生器	アナログ入出力部のデータ入出力動作及び精度を確認する。	
4	接続部の点検	接続ケーブル、プラグイン、コネクタ及び端子等の接続状態の点検。						○		接触部分の点検、接点部の接触不良に起因する障害を未然に防止する。	
5	機器本体の点検	機器外面の清掃。	○							塵埃の除去により装置内部への混入を防ぐ。	
		機器内部の清掃。						○		塵埃の除去による性能の維持。	
		ファンの動作確認。	○							ファン故障による内部温度上昇を事前に防止する。	
		エアフィルタの清掃、ファンの清掃。						○		目詰まりによる内部温度上昇を事前に防止する。 ファン故障による内部温度上昇を事前に防止する。	
		機器据付状態の確認。						○		取付金具の緩み等による事故の防止。	

「個別点検」 16-11 前処理装置／入出力処理装置（光ケーブル伝送方式）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考	
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月				
1	電圧等の測定	自蔵計器またはチェック端子により各部の電圧を確認する。					○		電圧計、デジタルマルチメータ	経年変化による動作不安定を未然に防止する。		
2	接続部の点検	接続ケーブル、プラグイン、コネクタ及び端子等の接続状態の点検。						○		接触部分の点検、接点部の接触不良に起因する障害を未然に防止する。		
3	光レベルの測定	光の送信及び受信レベルを測定し許容値範囲内か確認する。						○	光レベルメータ	機器異常及び光ケーブルの伝送損失が許容値範囲内であるか確認する。	測定後コネクタ部の清掃実施	
4	機器本体の点検	機器外面の清掃。	○								塵埃の除去により装置内部への混入を防ぐ。	
		機器内部の清掃。						○			塵埃の除去による性能の維持。	
		ファンの動作確認。	○								ファン故障による内部温度上昇を事前に防止する。	
		エアフィルタの清掃、ファンの清掃。						○			目詰まりによる内部温度上昇を事前に防止する。 ファン故障による内部温度上昇を事前に防止する。	
		機器据付状態の確認。							○		取付金具の緩み等による事故の防止。	

「個別点検」 16-12 前処理装置／入出力処理装置（メタルケーブル伝送方式）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考	
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月				
1	電圧等の測定	自蔵計器またはチェック端子により各部の電圧を確認する。					○		電圧計、デジタルマルチメータ	経年変化による動作不安定を未然に防止する。		
2	補助継電器の確認	発熱、変色の有無確認。								補助継電器の接点等の異常の有無を点検し、接触不良等による障害を未然に防止する。		
3	接続部の点検	接続ケーブル、プラグイン、コネクタ及び端子等の接続状態の点検。						○		接触部分の点検、接点部の接触不良に起因する障害を未然に防止する。		
4	機器本体の点検	機器外面の清掃。	○								塵埃の除去により装置内部への混入を防ぐ。	
		機器内部の清掃。						○			塵埃の除去による性能の維持。	
		ファンの動作確認。	○								ファン故障による内部温度上昇を事前に防止する。	
		エアフィルタの清掃、ファンの清掃。						○			目詰まりによる内部温度上昇を事前に防止する。 ファン故障による内部温度上昇を事前に防止する。	
		機器据付状態の確認。							○		取付金具の緩み等による事故の防止。	

「個別点検」 16-13 機側伝送装置（ゲート用）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考	
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月				
1	電圧等の測定	チェック端子等により各部の電圧を確認する。					○		電圧計、デジタルマルチメータ	経年変化による動作不安定を未然に防止する。		
2	保安器、避雷器の確認	発熱、変色の有無確認。					○			保安器、避雷器の異常の有無を点検し、損傷を早期に発見、修復することにより障害の発生を未然に防止する。		
3	デジタル入出力部の確認	機側盤との入出力信号を試験器にて確認。						○	試験用コンソール	試験器により、機側盤から入力するSV情報等が正常に取り込まれることを確認する。 試験器を用いて、機側盤に対し出力する開閉指令が正しく送出されることを確認する。		
4	出力リレー部の確認	接点状態、発熱、変色等の確認。						○		出力リレーの接点等の異常の有無を点検し、接触不良等による障害を未然に防止する。		
5	接続部の点検	接続ケーブル、プラグイン、コネクタ及び端子等の接続状態の点検。						○		接触部分の点検、接点部の接触不良に起因する障害を未然に防止する。		
6	光レベルの測定	光の送信及び受信レベルを測定し許容値範囲内か確認する。						○	光レベルメータ	機器異常及び光ケーブルの伝送損失が許容値範囲内であるか確認する。	光ケーブル伝送方式の場合のみ測定後コネクタ部の清掃実施	
7	機器本体の点検	筐体の点検。 筐体の防塵、防水構造の点検、発錆、腐食の有無を点検、スペースヒータの点検を行う。						○		機側伝送装置（ゲート用）は、機側に設置されるため、設置環境が厳しく、筐体の発錆、腐食、損傷等につき点検し、障害の発生を未然に防止する。		
		機器外面の清掃。	○							塵埃の除去により装置内部への混入を防ぐ。		
		機器内部の清掃。							○		塵埃の除去による性能の維持。	
		機器据付状態の確認							○		取付金具の緩み等による事故の防止。	

「個別点検」 16-14 機側伝送装置（水位計用）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	電圧等の測定	各部のチェック端子等により測定する。					○	電圧計、デジタルマルチメータ	標準値（導入時）との照合を行い、経年変化を把握する。		
2	保安器、避雷器の確認	発熱、変色の有無確認。					○		保安器、避雷器の異常の有無を点検し、損傷を早期に発見、修復することにより障害の発生を未然に防止する。		
3	接続部の点検	接続ケーブル、プラグイン、コネクタ及び端子等の接続状態の点検。						○	接触部分の点検、接点部の接触不良に起因する障害を未然に防止する。		
4	光レベルの測定	光の送信及び受信レベルを測定し許容値範囲内か確認する。						○	機器異常及び光ケーブルの伝送損失が許容値範囲内であるか確認する。	光ケーブル伝送方式の場合のみ測定後コネクタ部の清掃実施	
5	機器本体の点検	筐体の点検。 筐体の防塵、防水構造の点検、発錆、腐食の有無を点検、スペースヒータの点検を行う。						○		機側伝送装置（水位計用）は、機側に設置されるため、設置環境が厳しく、筐体の発錆、腐食、損傷等につき点検し、障害の発生を未然に防止する。	
		機器外面の清掃。	○							塵埃の除去により装置内部への混入を防ぐ。	
		機器内部の清掃。							○	塵埃の除去による性能の維持。	
		機器据付状態の確認							○	取付金具の緩み等による事故の防止。	

「個別点検」 16-15 通信制御処理装置／情報伝達処理装置

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	電圧等の測定	自蔵計器またはチェック端子により各部の電圧を確認する。					○	電圧計、デジタルマルチメータ	経年変化による動作不安定を未然に防止する。		
2	送受信レベルの測定	測定器により測定を行い基準値内にあることを確認及び調整。						○	経年、経時変化による動作不安定を未然に防止する。		
3	接続部の点検	接続ケーブル、プラグイン、コネクタ及び端子等の接続状態の点検。						○	接触部分の点検、接点部の接触不良に起因する障害を未然に防止する。		
4	機器本体の点検	機器外面の清掃。	○							塵埃の除去により装置内部への混入を防ぐ。	
		機器内部の清掃。							○	塵埃の除去による性能の維持。	
		ファンの動作確認	○							ファン故障による内部温度上昇を事前に防止する。	
		エアフィルタの清掃、ファンの清掃。						○		目詰まりによる内部温度上昇を事前に防止する。 ファン故障による内部温度上昇を事前に防止する。	
		機器据付状態の確認						○	取付金具の緩み等による事故の防止。		

「個別点検」 16-16 ゲート制御装置

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	電圧等の測定	自蔵計器またはチェック端子により各部の電圧を確認する。					○		電圧計、デジタルマルチメータ	経年変化による動作不安定を未然に防止する。	
2	接続部の点検	接続ケーブル、プラグイン、コネクタ及び端子等の接続状態の点検。						○		接触部分の点検、接点部の接触不良に起因する障害を未然に防止する。	
3	機器本体の点検	機器外面の清掃。	○							塵埃の除去により装置内部への混入を防ぐ。	
		機器内部の清掃。						○		塵埃の除去による性能の維持。	
		ファンの動作確認	○							ファン故障による内部温度上昇を事前に防止する。	
		エアフィルタの清掃、ファンの清掃。					○			目詰まりによる内部温度上昇を事前に防止する。 ファン故障による内部温度上昇を事前に防止する。	
		機器据付状態の確認						○		取付金具の緩み等による事故の防止。	

「個別点検」 16-17 中継端子盤

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	保安器、避雷器の点検確認	発熱、変色の有無確認。					○			保安器、避雷器の異常の有無を点検し、損傷を早期に発見、修復することにより障害の発生を未然に防止する。	
2	接続部の点検	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の点検。						○		接触部分の点検、接点部の接触不良に起因する障害を未然に防止する。	
3	機器本体の点検	機器外面の清掃。	○							塵埃の除去により装置内部への混入を防ぐ。	
		機器本体の内部の清掃。						○		塵埃の除去による性能の維持。	
		機器据付状態の確認。						○		取付金具の緩み等による事故の防止。	

「個別点検」 16-18 光ケーブル接続盤

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	接続部の点検	接続ケーブル、プラグイン、コネクタ及び端子等の接続状態の点検。						○		接触部分の点検、接点部の接触不良に起因する障害を未然に防止する。	
2	機器本体の点検	機器外面の清掃。	○							塵埃の除去により装置内部への混入を防ぐ。	
		機器内部の清掃。						○		塵埃の除去による性能の維持。	
		機器据付状態の確認。						○		取付金具の緩み等による事故の防止。	

「個別点検」 17-1 自家用電気設備環境点検

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備 考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	進相コンデンサ及び油入変圧器 (PCB台帳の確認)	本体と台帳の数量の整合確認をする。						○		装置の正常動作の確認 標準値(規定値)との照合 測定結果の変化傾向の把握	該当する製品のみ。
	P C B台帳の該当機器(進相コンデンサ及び油入変圧器)の状態確認	保管状態が正しい位置であることを確認する。						○			
2	非常(予備)電源用 自家発電設備の法定点検項目の確認	外観点検 発電設備室内に設置されたすべての機器について総合的に外側から目視により点検して、設備状況、機器の状態の異常や潤滑油、冷却水の状態が法に適合して、自家発電設備が運転待機状態となっていることを確認する。						○		該当する装置のみ適用。	
	〔消防法及び建築基準法に基づく点検基準〕	機能点検 無負荷で5～10分間運転して、発電設備の機能を確認する。						○			
		総合点検 総合点検は、模擬負荷、実負荷などにより1時間以上の連続運転を行い、運転中に異常のないことを確認する。						○			
3	接地抵抗値の正常値確認	接地端子盤において各種接地極との間の接地抵抗値を測定し、基準値内であることを確認する。 〔設置時のデータと比較し著しく変化のないこと。〕 電気設備技術基準、内線規定、高圧受変電設備規定による接地抵抗基準値を満足するか確認する。 A種 10Ω以下 B種 150/IΩ以下 I：TR一次側の一線地絡電流 (ただし、変圧器の高圧側の電路と低圧側の電路との混触により低圧電路の対地電圧が150Vを超えた場合に、1秒を超え2秒以内に自動的に高圧電路を遮断する装置を設けるときは、「150」は「300」に、1秒以内に自動的に高圧電路を遮断する装置を設けるときは「150」は「600」とする。) C種 10Ω以下 D種 100Ω以下						○	接地抵抗計		

「個別点検」 17-2 受変電設備（継電器類共通事項（誘導形））（1/2）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備 考	
			毎日	1ヶ 月	2ヶ 月	3ヶ 月	6ヶ 月	12ヶ 月				
1	過電流継電器（瞬時要素付）の性能確認	最小動作電流測定 整定タップにて、継電器の円板が動き始め、動作完了するまでの最小電流を測定し確認する。						○	リレーテスタ	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握		
		動作時間測定 整定タップにて、タップ値の 200、300、500%の電流を入力したときの動作時間を測定し確認する。						○				
		瞬時要素動作電流測定 電流コイルに徐々に通電し、動作完了するまでの最小電流を測定し確認する。						○				
2	長時限形過電流継電器小勢力過電流継電器の性能確認	最小動作電流確認 限時レバを 10/10 に整定し、円板がストップの点から動き始める電流が整定タップの 80%以上の値であることを確認する。						○				
		最小動作電流測定 整定タップにて、継電器の円板が動き始め、動作完了するまでの最小電流を測定し確認する。						○				
		整定タップにて、タップ値の 200、300、500%の電流を入力したときの動作時間を測定し確認する。						○				
		瞬時要素動作電流測定 電流コイルに徐々に通電し、動作完了するまでの最小電流を測定し確認する。						○				
3	不足電圧継電器の性能確認	最大動作電圧測定 整定タップにて、タップ値以上の電圧より徐々に電圧を低下させ、円板が動き始め、動作完了するまでの最大動作値を測定し確認する。						○				
		動作時間測定 整定タップにて、定格電圧印加の状態より、タップ値の 70、0%入力に急変したときの動作時間を測定し確認する。						○				
4	過電圧継電器の性能確認	最小動作電圧測定 整定タップにて、継電器の円板が動き始め、動作完了するまでの最小動作値を測定し確認する。						○				
		動作時間測定 整定タップにて、タップ値の 120、130、150%の電圧を入力したときの動作時間を測定し確認する。						○				

「個別点検」 17-2 受変電設備（継電器類共通事項（誘導形））（2/2）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備 考	
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月				
5	過電圧地絡継電器の性能確認	最小動作電圧測定 整定タップにて、継電器の円板が動き始め、動作完了するまでの最小動作値を測定し確認する。						○	リレーテスタ	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握		
		動作時間測定 整定タップにて、タップ値の 120、150、200%の電圧を入力したとき、動作時間を測定し確認する。						○				
6	方向地絡継電器の性能確認	クリーピング試験 電圧要素に定格電圧の 110%を印加して、継電器不動作を確認する。						○				
		最小動作電流測定 ZCTと組合せ、電圧コイルに定格電圧の 30、50、100%を印加したときの最小動作電流を測定し確認する。電圧と電流は同相にて行う。						○				
		位相特性測定 ZCTと組合せ、定格電圧における動作電流の 1000%の電流を通電し、進み位相、遅れ位相の動作点位相を測定し確認する。						○				
7	各種保護継電器の協調確認	現地検査成績書と現地整定値を照合する。						○				

「個別点検」 17-3 受変電設備（継電器類共通事項（静止形））（1/3）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備 考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	比率差動継電器（回転機保護）の性能確認	比率特性測定 抑制電流に対する最小動作電流を測定し確認する。 抑制電流は0、10、20Aとする。						○	リレーテスタ	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
		動作時間測定 抑制電流の300%、1000%を流したときの動作時間を測定し確認する。						○			
2	高調波抑制式比率差動継電器（変圧器保護）の性能確認	比率特性測定 抑制電流に対する最小動作電流を測定し確認する。 抑制電流は0、10、20Aとする。						○			
		動作時間測定 抑制電流0Aにて動作電流を基準最小動作電流の300%、1000%を流したときの動作時間を測定し確認する。						○			
		瞬時過電流動作測定 比率特性回路をロックして、動作電流をすみやかに約35A流して動作電流値を測定し確認する。						○			
3	地絡過電圧継電器の性能確認	最小動作電圧測定 現整定値で、電圧検出発光ダイオード（動作中）が点灯する最小動作電圧値を測定し確認する。						○			
		動作時間測定 現整定タップ値の120%、150%、200%の電圧を入力したときの動作時間を測定し確認する。						○			
4	地絡継電器の性能確認	最小動作電流測定 ZCTと組合せ、現整定値で動作に至る最小動作電流を測定し確認する。						○			
		動作時間測定 ZCTと組合せ現整定値タップの130%400%電流を入力したときの動作時間を測定し確認する。						○			

「個別点検」 17-3 受変電設備（継電器類共通事項（静止形））（2/3）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備 考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
5	地絡方向継電器の性能確認	最小動作零相電流測定 零相電圧 110V または 190V を印加し動作に至る最小動作電流を測定し確認する。（電流は遅れ 45° とする）						○	リレーテスタ	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
		最小動作零相電圧測定 進み 4 5° の零相電流 1 A を流し零相電圧を徐々に上げて動作に至る最小動作電圧を測定し確認する。						○			
		位相特性測定 2CT と組合せ、定格電圧を印加して一定に保ち、公称動作電流の 200%、500%、1000% の電流を通电し、進み位相遅れ位相の動作点位相を測定し確認する。						○			
		動作時間測定 定格電圧を印加し、電流を最高感度角で公称動作電流の 1000% 電流を通电して動作に至る時間を測定し確認する。						○			
6	速度継電器の性能確認	過速度動作測定（過速度継電器） タコダイ入力端子 T ₁ 、T ₂ に可変周波数電源を接続して、概ね周波数と電圧を 60V : 400Hz の比に変化させながら徐々に周波数を上げて動作に至る最小動作周波数を測定し確認する。（電圧は 10V → 20V → 30V … 程度の変化でよい）						○			
		同期速度動作測定（同期速度継電器） 試験方法は上記と同様とする。 概ね整定値に見合った周波数と電圧を印加し、徐々に周波数を上げて動作に至る最小動作周波数を測定し確認する。						○			
7	不足電圧継電器の性能確認	最大動作電圧測定 現整定値で、整定値以上の電圧より徐々に電圧を低下させ、「動作中」の発光ダイオードが点灯する最大動作電圧値を測定し確認する。						○			
		動作時間測定 現整定値で、定格電圧印加状態より電圧整定値の 70%、0% 入力に急変したときの動作時間を測定し確認する。						○			
8	電圧継電器の性能確認	最小動作電圧測定 現整定値で、電圧を徐々に上げて（84A）、（84B）及び（84C）の要素が動作に至る最小動作電圧を 84R 及び 84G 各々（計 6 要素）について測定し確認する。						○			
		動作時間測定 現整定値の 120%、130%、150% の電圧を入力したときの動作時間を測定し確認する。						○			

「個別点検」 17-3 受変電設備（継電器類共通事項（静止形））（3/3）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
9	2E継電器・3E継電器の性能確認	テストボタンによる動作の確認をする。						○	リレーテスタ	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
		過電流最小動作電流測定 時間目盛を最小にセットし、現整定目盛で電流を徐々に増加し、動作に至る最小動作電流を測定し確認する。						○			
		過電流動作時間測定 電流整定目盛の200%、600%の電流を入力したときの動作時間を測定し確認する。						○			
		欠相動作電流測定 3相のうち1相あるいは2相を欠相接続し、試験電流を徐々に増加して動作に至る最小動作電流を測定し確認する。 （3相中1相についてのみ行う。）						○			
		反相最小動作電流測定（3Eのみ） 3相反相電流を3相共にバランスをとりながら徐々に増加し、動作に至る最小動作電流を測定し確認する。						○			
		過電流最小動作時間測定 現整定目盛を含め各目盛について測定し確認する。						○			
		過電流動作時間測定 現整定目盛を含め各目盛について測定し確認する。						○			
		欠相動作電流測定 3相共欠相動作電流を測定し確認する。						○			
10	各種保護継電器の協調確認	現地検査成績書と現地整定値を照合する。						○			

「個別点検」 17-4 受変電設備（図書類・予備品等の確認）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備 考
			毎日	1ヶ 月	2ヶ 月	3ヶ 月	6ヶ 月	12ヶ 月			
1	図書類・予備品等の保管状況の確認	図書類が整理・保管されていることを確認する。						○		障害時の備え	
		予備品類の保管状態・数量等を確認する。						○			
		ソフトウェア媒体の最新版が保管されていることを確認する。						○			

「個別点検」 17-5 閉鎖型受変電設備 (1/2)

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考	
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月				
1	外観、操作機能の確認	母線及び支持物	碍子、クランプ類の破損、変形接続部の変色の有無を確認する。						○	装置の正常動作の標準値(規程値)との照合 測定結果の変化傾向の把握	※: 3年毎に点検する。	
			異物、塵埃の付着の有無を確認する。						○			
			清掃による汚損除去をする。						○			
			ケーブル引込み口のシール状態、小動物の侵入形跡を確認する。						○			
			母線各部の締め付け状態を確認する。						※			
		制御回路	電線被覆の損傷、変色の有無を確認する。						○			
			端子接続部の緩み、変色の有無を確認する。						○			
			制御ヒューズの断線、変形、変色の有無を確認する。						○			
		引出し機構	ボルト類の緩み、脱落の有無を確認する。						○			
			レール、ストッパの変形の有無を確認する。						○			
			主回路断路部の変色の有無を確認する。						○			
			制御プラグの変形、破損の有無を確認する。						○			
			異物、塵埃の付着の有無を確認する。						○			
			清掃による汚損除去をする。						○			
			挿入接触の状態を確認する。						○			
		端子台	端子接続部の緩み、変色の有無を確認する。						○			
			絶縁物の破損、変形の有無を確認する。						○			
			異物、塵埃の付着の有無を確認する。						○			
			清掃による汚損除去をする。						○			
			配線端子符号の確認をする。						○			
		接地線、接地端子接続部の緩み、変色、腐食、断線の有無を確認する。						○				
		保護継電器(誘導形、静止形)	保護継電器については、次の点検項目に基づき点検する。 【個別点検17-2:受変電設備(継電器類共通事項 誘導形)】 【個別点検17-3:受変電設備(継電器類共通事項 静止形)】						○			リレーテスト
		操作開閉器 切換開閉器	接触部の荒れ、変色の有無を確認する。						○			
		漏電用遮断器 配線用遮断器	絶縁物の破損、変形の有無を確認する。						○			
			異物、塵埃の付着の有無確認と清掃による汚損除去をする。						○			
			端子部の変色の有無を確認する。						○			
			ボルト類の緩み、脱落の有無を確認する。						○			
		補助継電器 電磁接触器	開閉具合が正常であるか確認する。						○			
			絶縁物の破損、変形の有無を確認する。						○			
			異物、塵埃の付着の有無を確認する。						○			
清掃による汚損除去をする。							○					
計器用変成器	ボルト類の緩み、脱落、コイル、鉄心の変色、焼損の有無を確認する。						○					
	外観上の損傷、変形の有無を確認する。						○					
	取付けボルトの緩み、変色の有無を確認する。						○					
避雷器	外観上の損傷、変形の有無を確認する。						○					
	取付けボルトの緩み、脱落の有無を確認する。						○					

「個別点検」 17-5 閉鎖型受変電設備 (2/2)

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法		点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
				毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	外観、操作機能の確認	断路器	断路器については、次の点検項目に基づき点検する。 【個別点検19-1：高圧設備（断路器）】							○	装置の正常動作の標準値（規程値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	※：3年毎に点検する項目有り。 ※：3年毎に点検する項目有り。 ※：適時、5年毎時に点検項目有り。
		油入遮断器	油入遮断器については、次の点検項目に基づき点検する。 【個別点検19-2：高圧設備（油入遮断器）】							○		
		真空遮断器	真空遮断器については、次の点検項目に基づき点検する。 【個別点検19-3：高圧設備（真空遮断器）】							○		
		油入変圧器	油入変圧器については、次の点検項目に基づき点検する。 【個別点検19-4：高圧設備（油入変圧器）】							○		
		モールド変圧器	モールド変圧器については、次の点検項目に基づき点検する。 【個別点検19-5：高圧設備（モールド変圧器）】							○		
		電力用コンデンサ設備	電力用コンデンサについては、次の点検項目に基づき点検する。 【個別点検19-8：高圧設備（電力用コンデンサ設備）】							○		
		電力ヒューズ	電力ヒューズについては、次の点検項目に基づき点検する。 【個別点検19-9：高圧設備（電力ヒューズ）】							○		
		開閉器	開閉器については、次の点検項目に基づき点検する。 【個別点検19-10：高圧設備（開閉器）】							○		
		区分開閉器	区分開閉器については、次の点検項目に基づき点検する。 【個別点検19-13：高圧設備（区分開閉器）】							○		
		引込柱	引込柱については、次の点検項目に基づき点検する。 【個別点検19-12：高圧設備（引込柱）】							○		
		ケーブル	ケーブルについては、次の点検項目に基づき点検する。 【個別点検19-15：高圧設備（引込柱）】							○		
2	絶縁耐力及び機能、性能の確認	絶縁抵抗測定	主回路は1000V絶縁抵抗計で測定し、据付時と比べて著しく低下していないことを確認する。 制御回路は500V絶縁抵抗計で測定し、据付時と比べて著しく低下していないことを確認する。							○	装置の正常動作の標準値（規程値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
									○			
3	機能を維持するための確認	各部の締め付け状況を確認する。								○	周囲環境を考慮した機能維持	
		各部の内外面の清掃による汚損除去をする。								○		

「個別点検」 18-1 特別高圧設備（断路器）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備 考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	外観、操作機能の確認	本体	開閉操作による開閉の確認をする。						○	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	その他電動操作装置等のある 場合は3年毎に点検する。
			操作部の三相不揃の確認をする。 可動部と固定部の接触ストロークの確認、接触到大きなストロークずれがないことを確認する。						○		
			ボルト、ナット、割ピンの脱落、摩耗の有無を確認する。						○		
		操作装置	操作装置駆動部の操作による円滑な動作の確認をする。						○		
			操作装置内部の配線接続部の緩みの有無を確認する。						○		
			補助接触子の接触具合、接点の損傷の有無を確認する。						○		
			機構軸受部への注油を行う。						○		
2	絶縁耐力及び機能の確認	絶縁抵抗測定	主回路導電部—大地間は、1000V絶縁抵抗計により66kV以上は1000MΩ以上、66kV未満は500MΩ以上であることを確認する。						○	絶縁抵抗計 (1000Vメガー・ 500Vメガー)	
			制御回路一括大地間は、500V絶縁抵抗計により2MΩ以上であることを確認する。						○		絶縁抵抗計 (500Vメガー)
		開閉操作試験 数回の開閉操作を行い、異常のないことを確認する。							○		
3	機能を維持するための確認	各部の締め付け状態を確認する。 (M12 360N/cm、M10 200N/cm)							○	トルクレンチ	
		各部の内外面の清掃による汚損の除去をする。							○		周囲環境を考慮した機能維持

「個別点検」 18-2 特別高圧設備（油入遮断器）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	外観、操作機能の確認	本体 手動及び電磁操作を数回ずつ行い各部の動作及び表示器、カウンタの動作を確認する。 ボルト・ナットの緩み、割ピン、スナップピン、止め輪等の折損、脱落等の確認をする。 フックとコロの係合部、滑動面、各バネの損傷を確認する。 回転部・摺動部への注油を行う。 各リンクの掛合具合を確認する。 投入リレーの動作具合、接点消弧室の損傷の有無を確認する。 補助接触子の接触具合、接点の荒れの確認をする。 制御装置部の配線の損傷劣化、接続部の緩み、制御リレーの動作確認、補助接触子の接触具合の確認をする。						○	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握		
								○			
								○			
								○			
								○			
								○			
								○			
								○			
2	機能の確認	本体 接触子寸法、接触棒長さ、可動部ストロークの確認をする。 消弧室の汚損、破損、緩み等を確認し、損傷箇所はヤスリ等で磨き、洗浄、増締する。 絶縁ロッド、碍子、その他絶縁物の損傷、吸湿の有無を確認し、金属粉、炭化物は洗浄する。 ボルト・ナットの緩み、ピン類の脱落、ばねの折損の有無を確認する。 可動接触子の入り具合、不揃いを確認する。 絶縁油補充または交換をする。 投入、遮断・緩衝器の動作具合、油漏れ等の有無を確認する。 引出装置の1次断路部の接触状態、変色の有無を確認する。 インターロックの投入ロック動作を確認する。						※	※：3年毎に点検する。		
								※			
								※			
								※			
								※			
								※			
								※			
								※			
3	絶縁耐力及び機能の確認	絶縁抵抗測定 主導電部と大地間及び開極位置の両端子間は、1000V絶縁抵抗計により500MΩ以上あることを確認する。 制御回路一括大地間は、500V絶縁抵抗計により2MΩ以上あることを確認する。						○	絶縁抵抗計 (1000Vメガー・500Vメガー)	※：3年毎に点検する。	
								○			
		開閉特性試験 測定器により投入時間と開極時間及び三相不揃い時間を測定し確認する。						※	ミリ秒ドメータ 放電オシロ		
		絶縁油の耐圧試験を行う。						※	油耐圧試験器		
		電圧計により最小引外し電圧を測定し確認する。						※	500V電圧計		
4	機能を維持するための確認	各部の締め付け状態を確認する。 (M12 360N/cm、M10 200N/cm)						○	トルクレンチ	周囲環境を考慮した機能維持	
		各部の内外面の清掃による汚損の除去をする。 タンクを降し排油、油タンク、セパレータの洗浄、清掃、手入を行う。(タンクパッキン交換)						○			

「個別点検」 18-3 特別高圧設備（真空遮断器）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考	
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月				
1	外観、操作機能の確認	機器本体	手動及び電磁操作を数回ずつ行い各部の動作及び表示器、カウンタの動作を確認する。						○	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握		
			ボルト・ナットの緩み、割ピン、スナップピン、止め輪等の折損、脱落等の外見上の確認をする。						○			
		真空バルブの極柱	真空バルブの外見上の異常（ガラス表面の汚損、キズ、クラック）の有無を確認する。						○			
			可動電極リード棒の油切れの有無を確認する。						○			
			絶縁棒、絶縁ロッドのキズクラックの有無を確認する。						○			
			真空バルブの電極消耗の確認及び投入状態で真空バルブ可動リードの赤色目安線をギャップゲージの挿入で確認する。						○		ギャップゲージ	
		制御装置部	配線の損傷劣化、接続部の緩みを確認する。						○			
	制御リレーの動作を確認する。						○					
	補助接触子の接触具合を確認する。						○					
2	機能の確認	本体	投入状態で主フックと投入電磁石の鉄心吸引の余裕ギャップ寸法を確認する。						※	ギャップゲージ、ノギス	※：3年毎に点検する。	
			引外し電磁石のプランジャーとトリップレバーとの遊び寸法を測定し確認する。						※			
			投入状態で反復防止リレーの可動鉄心とピンとのギャップ寸法を測定し確認する。						※			
			遮断距離を測定し確認する。（開極時の電極間距離）						※			
			引出装置の1次断路部の接触状態、変色の有無を確認する。						○			
			投入禁止状態での投入ロック動作を確認する。						○			
3	絶縁耐力及び機能の確認	絶縁抵抗測定	主導電部と大地間及び開極位置の両端子間は、1000V絶縁抵抗計により500MΩ以上あることを確認する。						○	絶縁抵抗計 (1000Vメガー・500Vメガー)	※：3年毎に点検する。	
			制御回路一括大地間は、500V絶縁抵抗計により2MΩ以上あることを確認する。						○			
		開閉特性試験	測定器により投入時間と開極時間及び三相不揃い時間の確認をする。						※			ミリ秒メートル、放電オシロ
			真空バルブの真空度を真空チェッカにより確認する。						※			真空チェッカ
			電圧計により最小引外し電流・電圧を確認する。						※			500V電圧計
4	機能を維持するための確認		各部の締め付け状態を確認する。 (M12 360N/cm、M10 200N/cm)						○	トルクレンチ		
			各部の内外面の清掃による汚損除去をする。						○		周囲環境を考慮した機能維持	

「個別点検」 18-4 特別高圧設備（油入変圧器）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考		
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月					
1	外観、機能の確認	放圧装置	放圧板の亀裂、油漏れ、ガス漏れの有無を確認する。						○	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	装置のみ適用該当する。		
			警報接点の導通を確認する。						○			テスタ	
		温油 度圧 計計	透視板のくもり、亀裂の有無確認及び清掃をする。						○			テスタ	
			警報接点の導通を確認する。						○				
		集 合 端 子 箱	雨水侵入、発錆の有無を確認する。						○				
			端子接続部の緩みの有無、変色、汚れの状態を確認する。						○				
			結露の有無を確認する。						○				
			パッキンの劣化状態を確認する。						○				
		ケーブルダクト、バスダクト		雨水侵入、発錆の有無、端子接続部の緩み、変色の有無を確認する。								○	
		窒入 素装 封置	連成計指針の動きを確認する。									○	
			窒素純度の確認をする。(適時)						※			濃度計	※：適時に点検する。
保 護 装 置	油漏れの有無を確認する。						※						
	動作状況の確認をする。						※						
	端子接続部の緩み、変色の有無を確認する。						※						
コンサベータ		隔膜の破損の有無、油漏れ、ガス漏れの有無を確認する。						※					
2	絶縁耐力及び機能の 確認		絶縁抵抗測定	各巻線間及び巻線と大地間を 1000V絶縁抵抗計により測定し確認する。 ただし、判定基準は、変圧器温度により左右されるため、メーカー推奨値とする。							○	テスタ、 絶縁抵抗計 (1000V メガー)	
		計器類及び保護継電器類 500V 絶縁抵抗計により測定し 1MΩ 以上あることを確認する。							○	絶縁抵抗計 (500V メガー)			
		絶縁油耐圧試験を行う。							※	油耐圧試験器	※：5年毎に点検する。		
		油中ガス分析を行う。(適時)							※	ガス分析器	※：適時に点検する。		
3	機能を維持するための 確認	各部の締め付け状態を確認する。 (M12 360N/cm、M10 200N/cm)							○	トルクレンチ			
		各部の内外面の清掃による汚損除去をする。							○	周囲環境を考慮した機能維持			

「個別点検」 18-5 特別高圧設備（避雷器）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	絶縁耐力及び機能の確認	絶縁抵抗の測定 線路側を切離し、1000V絶縁抵抗計により両端子間を測定、1000MΩ以上であることを確認する。						○	絶縁抵抗計 (1000V メガー)	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	対象となる装置のみ
		接地抵抗測定 A種 10Ω以下であることを確認する。						○	接地抵抗計		
		漏れ電流の測定 実使用の電圧にて電流計を接地線と直列に接続して、避雷器内部の漏れ電流を測定し確認する。						※	電流計		
2	機能を維持するための確認	各部の締め付け状態を確認する。 (M12 360N/cm、M10 200N/cm)						○	トルクレンチ	周囲環境を考慮した機能維持	
		締付部の緩みの増締めを行う。						○			
		基礎ボルトの緩みの増締めを行う。						○			
		各部の内外面の清掃による汚損除去をする。						○			
		碇子の清掃による汚損除去をする。						○			

「個別点検」 18-6 特別高圧設備（計器用変成器）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考	
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月				
1	外観、機能の確認	各部の発錆、油量、油の汚れ、配線状態等の確認をする。							○		装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
2	絶縁耐力及び機能の確認	乾式 各巻線間及び巻線と大地間は、1000V絶縁抵抗計により測定し確認する。 1次側 50MΩ以上 2次側 1MΩ以上							○	絶縁抵抗計（1000Vメガー）		
		油入式 各巻線間及び巻線と大地間は、1000V絶縁抵抗計により測定し確認する。 判定基準は、機器温度により左右されるためメーカー推奨値とする。							○			
		油中ガス分析による内部異常の有無を確認する。（適時）						※	ガス分析器			
3	機能を維持するための確認	各部の締め付け状態を確認する。 （M12 360N/cm、M10 200N/cm）							○	トルクレンチ		
		外面の清掃による汚損除去をする。							○		周囲環境を考慮した機能維持	

「個別点検」 18-7 特別高圧設備（母線・構造物）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考	
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月				
1	機能を維持するための確認	外面の清掃による汚損除去をする。							○		周囲環境（維持）を考慮した機能維持	
2	絶縁耐力の確認	絶縁抵抗の測定 1000V絶縁抵抗計で測定し、据付時と比べ著しく低下していないことを確認する。							○	絶縁抵抗計（1000Vメガー）	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	

「個別点検」 18-8 特別高圧設備（閉鎖配電盤）（1/2）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	外観、操作機能の確認	母線及び支持物	ボルト類の緩み、脱落の有無を確認する。						○	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	主回路引込み引出し部。
			碍子、クランプ類の破損、変形接続部の変色の有無を確認する。						○		
			異物、塵埃の付着の有無確認と清掃による汚損除去をする。						○		
			ケーブル引込み口のシール状態を確認する。						○		
			小動物の侵入形跡の確認をする。						○		
		制御回路	電線被覆の損傷、変色の有無を確認する。						○		
			端子接続部の緩み、変色の有無を確認する。						○		
			制御ヒューズの断線、変形、変色の有無を確認する。						○		
		引出し機構	ボルト類の緩み、脱落の有無を確認する。						○		
			レール、ストップの変形の有無を確認する。						○		
			主回路断路部の変色の有無を確認する。						○		
			制御プラグの変形、破損の有無を確認する。						○		
			異物、塵埃の付着の有無確認と清掃による汚損除去をする。						○		
			挿入接触状態の確認をする。						○		
		端子台	端子接続部の緩み、変色の有無を確認する。						○		
			絶縁物の破損、変形の有無を確認する。						○		
			異物、塵埃の付着の有無確認と清掃による汚損除去をする。						○		
			配線端子符号の確認をする。						○		
		接地線・子	端子接続部の緩み、変色の有無を確認する。						○		
			腐食、接地線の被覆、断線等の有無を確認する。						○		
		操作開閉器、切換開閉器	接触部の荒れ、変色の有無を確認する。						○		
配漏線電用遮断器	絶縁物の破損、変形の有無を確認する。						○				
	異物、塵埃の付着の有無確認と清掃による汚損除去をする。						○				
	端子部の変色の有無を確認する。						○				
	ボルト類の緩み、脱落の有無を確認する。						○				
	開閉具合に異常が無いか確認する。						○				

「個別点検」 18-8 特別高圧設備（閉鎖配電盤）（2/2）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	外観、操作機能の確認	電補 磁助 接継 触電 器器 ・	絶縁物の破損、変形の有無を確認する。						○	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握 周囲環境を考慮した機能維持	
			異物、塵埃の付着の有無確認と清掃による汚損除去をする。						○		
			端子部の変色の有無を確認する。						○		
			ボルト類の緩み、脱落の有無を確認する。						○		
			コイル、鉄心の変色、焼損の有無を確認する。						○		
		変 成 器	外観上の損傷、変形の有無を確認する。						○		
			取り付けボルトの緩み、変色の有無を確認する。						○		
		避 雷 器	外観上の損傷、変形の有無を確認する。						○		
取り付けボルトの緩み、脱落の有無を確認する。							○				
2	絶縁耐力の確認	絶縁抵抗測定	主回路 1000V絶縁抵抗計により測定し、据付時と比べ著しく低下していないことを確認する。						○	絶縁抵抗計 (1000Vメガー)	
		制御回路 500V絶縁抵抗計により測定し、据付時と比べ著しく低下していないことを確認する。						○	絶縁抵抗計 (500Vメガー)		
3	機能を維持するための確認	各部の締め付け状態を確認する。 (M12 360N/cm、M10 200N/cm)							○	トルクレンチ	
		外部の内外面の清掃による汚損除去をする。							○	周囲環境を考慮した機能維持	

「個別点検」 18-9 特別高圧設備（ガス絶縁開閉装置）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考	
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月				
1	外観、操作機能の確認	開閉操作	開閉表示器の状態を確認する。						○	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握		
			回数計の動作の確認をする。						○			
			補助開閉器の状態を確認する。						○			
			開閉操作試験を行い、正常であることを確認する。						○			
		外部点検	締付け部の確認をする。						○			
			発錆、塗装のはがれの有無を確認する。						○			
			配管の状態を確認する。						○			
			ガス圧力を確認する。						○			
		操作装置及び制御器具	ボルト、ナット類の締付状態を確認する。						○			
			箱内の湿潤、発錆の有無、汚損の状態を確認する。						○			
			配線の状態を確認する。						○			
配管の状態を確認する。							○					
2	絶縁耐力の確認	絶縁抵抗測定	低圧回路 回路と対地間を 500V 絶縁抵抗計で測定し、2MΩ 以上あることを確認する。						○	絶縁抵抗計 (500V メガー)		
			主回路 主回路と対地間を 1000V 絶縁抵抗計で測定し、1000MΩ 以上あることを確認する。						○	絶縁抵抗計 (1000V メガー)		

「個別点検」 18-10 特別高圧設備（ケーブル）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	外観、機能の確認	ケーブル露出部の腐食、亀裂、損傷等の確認をする。								装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合	
2	絶縁耐力の確認	絶縁抵抗の測定 1000V絶縁抵抗計で測定し、据付時と比べ著しく低下していないことを確認する。							絶縁抵抗計（1000Vメガー）	測定結果の変化傾向の把握	

「個別点検」 18-11 特別高圧設備（圧縮空気発生装置）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	外観、機能の確認	潤滑油、ブーリー、Vベルト、ボルト等の状態を確認する。								装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
		圧力計、安全弁、圧力継電器の状態を確認する。									
		吸排気弁、吸入フィルタ、逆止弁の清掃による汚損除去をする。							※		

「個別点検」 19-1 高圧設備（断路器）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	外観、操作機能の確認	本体	開閉操作による開閉の確認をする。						○	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
			操作部の三相不揃の確認をする。						○		
			ボルト、ナット、割ピンの脱落、摩耗の有無を確認する。						○		
		操作装置	操作装置駆動部の操作による円滑の動作の確認をする。						○		
			操作装置内部の配線接続部の緩みの有無を確認する。						○		
			補助接触子の接触具合、接点の損傷の有無を確認する。						○		
			機構軸受部への注油を行う。						○		
2	絶縁耐力及び性能の確認	絶縁抵抗測定	主回路導電部一大地間は、1000V絶縁抵抗計により 500MΩ以上であることを確認する。						○	絶縁抵抗計 (1000Vメガー)	
			制御回路一括大地間は、500V絶縁抵抗計により 2MΩ以上であることを確認する。						○	絶縁抵抗計 (500Vメガー)	
		開閉操作試験 数回の開閉操作を行い、異常のないことを確認する。						○			
3	機能を維持するための確認	各部の締め付け状況を確認する。						○	周囲環境を考慮した機能維持		
		各部の内外面の清掃による汚損除去をする。						○			

「個別点検」 19-2 高圧設備（油入遮断器）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	外観、操作機能の確認	本体 手動及び電磁操作を数回ずつ行い各部の動作及び表示器、カウンタの動作を確認する。 ボルト・ナットの緩み、割ピン、スナップピン、止め輪等の折損、脱落等の外見上の確認をする。 フックとコロの係合部、滑動面、各バネの損傷を確認する。 回転部・摺動部への注油を行う。 各リンクの掛合具合を確認する。 投入リレーの動作具合、接点消弧室損傷の有無を確認する。 補助接触子の接触具合、接点の荒れの有無を確認する。 制御装置部の配線の損傷劣化、接続部の緩み、制御リレーの動作確認、補助接触子の接触具合の確認をする。						○	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握		
										○	
										○	
										○	
										○	
										○	
										○	
2	機能の確認	本体 投入、遮断・緩衝器の動作具合、油漏れ等の有無を確認する。 引出装置の1次断路部の接触状態、変色を確認する。 インターロックの投入ロック動作を確認する。 接触子寸法、接触棒長さ、可動部ストロークを確認する。 消弧室の汚損、破損、緩み等を確認し、損傷箇所はヤスリ等で磨き、洗浄、増締する。 絶縁ロッド、碍子、その他絶縁物の損傷、吸湿の有無を確認し、金属粉、炭化物は洗浄する。 ボルト、ナットの緩み、ピン類の脱落、バネの折損の有無を確認する。 可動接触子の入り具合、不揃を確認する。 絶縁油補充または交換を行う。						○	ギャップゲージ、ノギス	※：3年毎に点検する。	
											○
											○
											※
											※
											※
											※
											※
3	絶縁耐力及び機能の確認	絶縁抵抗測定 主回路導電部ー大地間は、1000V絶縁抵抗計により500MΩ以上であることを確認する。 制御回路一括大地間は、500V絶縁抵抗計により2MΩ以上であることを確認する。						○	絶縁抵抗計 (1000Vメガー)	※：3年毎に点検する。	
									○		絶縁抵抗計 (500Vメガー)
		開閉特性試験 測定器により投入時間と開極時間及び三相不揃い時間を測定し確認する。							※		ミリ秒メータ 放電オシロ
		絶縁油の耐圧試験を行う。							※		油耐圧試験器
		電圧計により最小引外し電流・電圧を測定し確認する。							※		500V電圧計
4	機能を維持するための確認	各部の内外面の清掃による汚損除去をする。 排油、油タンク、セパレータの洗浄、清掃、手入れをする。 (タンクパッキン交換)							※	周囲環境を考慮した機能維持	※：3年毎に点検する。
		各部の締め付け状況を確認する。							○		

「個別点検」 19-3 高圧設備（真空遮断器）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考			
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月						
1	外観、操作機能の確認	機器本体	手動及び電磁操作を数回ずつ行い各部の動作及び表示器、カウンタの動作を確認する。							○	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握			
			ボルト・ナットの緩み、割ピン、スナップピン、止め輪等の折損、脱落等の外見上の確認をする。							○				
		真空バルブ	真空バルブの外見上の異常（ガラス表面の汚損、キズ、クラック）の有無を確認する。									○		
			可動電極リード棒の油切れの有無を確認する。									○		
			絶縁棒、絶縁ロッドのキズ、クラックの有無を確認する。									○		
		真空バルブの極柱	真空バルブの電極消耗確認 投入状態でV I 可動リードの赤色目安線をギャップゲージの挿入で確認する。									○	ギャップゲージ	
		制御装置部	配線の損傷劣化、接続部の緩みを確認する。									○		
		制御リレーの動作を確認する。								○				
		補助接触子の接触具合の確認をする。								○				
2	機能の確認	本体	引出装置の1次断路部の接触状態、変色の有無を確認する。								○	※：3年毎に点検する。		
			インターロックの投入ロック動作を確認する。								○			
			投入状態で主フックと投入電磁石の鉄心吸引の余裕ギャップ寸法を確認する。								※		ギャップゲージ、ノギス	
			引外し電磁石のプランジヤーとトリップレバーの遊び寸法を測定し確認する。								※			
			投入状態で反復防止リレーの可動鉄心とピンとのギャップ寸法を測定し確認する。										※	
		遮断距離を測定し確認する。（開極時の電極間距離）								※				
3	絶縁耐力及び機能の確認	絶縁抵抗測定	主回路導電部－大地間は、1000V絶縁抵抗計により500MΩ以上であることを確認する。								○	絶縁抵抗計 (1000Vメガー)		
			制御回路一括大地間は、500V絶縁抵抗計により2MΩ以上であることを確認する。								○	絶縁抵抗計 (500Vメガー)		
			開閉特性試験 測定器により投入時間と開極時間及び三相不揃い時間を確認する。									※	ミリ秒測定器 放電オシロ	※：3年毎に点検する。
			真空バルブの真空度を真空チェッカにより確認する。									※	真空チェッカ	
			電圧計により最小引外し電流・電圧を測定し確認する。									※	500V電圧計	
4	機能を維持するための確認		各部の締め付け状況を確認する。								○	周囲環境を考慮した機能維持		
			各部の内外面の清掃による汚損除去をする。								○			

「個別点検」 19-4 高圧設備（油入変圧器）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	外観、機能の確認	ブッシングの清掃をする。						○		装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
		放圧装置 放圧板の亀裂、油漏れ、ガス漏れ及び警報接点の導通を確認する。						○			
		温度計、油面計、連成計 透視板のくもり、亀裂、清掃及び警報接点の導通を確認する。						○	テスタ		
		ケーブルダクト、バスダクト 雨水侵入、発錆の有無及び端子接続部の緩み、変色の有無を確認する。						○			
2	絶縁耐力及び性能の確認	絶縁抵抗測定 各巻線間及び巻線と大地間を 1000V 絶縁抵抗計により測定し確認する。 ただし、判定基準は、メーカー推奨値とする。						○	絶縁抵抗計 (1000Vメガー)		
		計器類及び保護継電器類は、500V 絶縁抵抗計により 2 MΩ 以上であることを確認する。						○	絶縁抵抗計 (500Vメガー)		
		絶縁油耐圧試験を行う。						※	油耐圧試験器	※：5年毎に点検する。	
		油中ガス分析を行う。(適時)						※	ガス分析器	※：適時に点検する。	
3	機能を維持するための確認	各部の締め付け状況を確認する。						○		周囲環境を考慮した機能維持	
		各部の内外面の清掃による汚損除去をする。						○			

「個別点検」 19-5 高圧設備（モールド変圧器）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考		
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月					
1	外観、機能の確認	巻線・鉄心	絶縁物の変色、亀裂の有無を確認する。						○		装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握		
			鉄心、クランプリングの発錆の有無を確認する。						○				
			腐食、放電痕、カーボンの付着の有無を確認する。						○				
		ダイヤル温度計	温度指示値記録を確認する。						○				
			ガラス面のくもりを確認する。						○				
			防振ゴムのずれ、亀裂の有無を確認する。						○				
			警報接点の導通を確認する。						○	テスタ			
2	絶縁耐力の確認	絶縁抵抗測定	各巻線間及び巻線と大地間を1000V絶縁抵抗計により測定し、確認する。 ただし、判定基準は、メーカー推奨値とする。						○	絶縁抵抗計 (1000Vメガー)			
			計器類及び保護継電器類は、500V絶縁抵抗計により2MΩ以上であることを確認する。						○	絶縁抵抗計 (500Vメガー)			
3	機能を維持するための確認	各部の締め付け状況を確認する。						○		周囲環境を考慮した機能維持			
		各部の外面の清掃による汚損除去をする。						○					

「個別点検」 19-6 高圧設備（計器用変成器）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	外観構造の確認	各部の発錆、配線状態等の確認をする。								装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合	
2	絶縁耐力の確認	絶縁抵抗の測定 ・乾式 各巻線間及び巻線と大地間は、1000V絶縁抵抗計により測定し、確認する。 1次側 50MΩ以上 2次側 1MΩ以上							絶縁抵抗計 (1000Vメガー)	測定結果の変化傾向の把握	
3	機能を維持するための確認	外部の締め付け状況確認及び外面の清掃をする。								周囲環境を考慮した機能維持	

「個別点検」 19-7 高圧設備（避雷器）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	外観、操作機能の確認	放の 圧異 装常 置確 の認 外 見 上	放電電流、記録装置の確認 表示の有無及び取付状態を確認する。							装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
			動作回数、表示装置の確認 動作回数、カバーの締め付け及び汚れ具合を確認し清掃 をする。								
2	絶縁耐力及び性能の確認	絶縁抵抗測定 線路側を切離し、1000V絶縁抵抗計により両端子間を測定し、 1000MΩ以上であることを確認する。							絶縁抵抗計 (1000Vメガー)	※：3年毎に点検する。	
		漏れ電流測定 実使用の電圧にて電流計を接地線と直列に接続して、避雷器 内部の漏れ電流を測定し確認する。							電流計		
3	機能を維持するための確認	各部の締め付け状況を確認する。 締め部の緩み、増締め、取付けボルトの緩み、増締め及び接 続部の緩み増締めをする。								周囲環境を考慮した機能維持	
		各部の外面の清掃をする。 碍子の清掃による汚損除去をする。									

「個別点検」 19-8 高圧設備（電力用コンデンサ設備）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法		点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考	
				毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月				
1	絶縁耐力の確認	絶縁抵抗測定	電力コンデンサ 直列リアクトル	高圧回路は 1000V の絶縁抵抗計で測定し、据付時と比べて著しく低下していないことを確認する。						○	絶縁抵抗計 (1000Vメガー)	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
				低圧回路は 500V の絶縁抵抗計で測定し、据付時と比べて著しく低下していないことを確認する。						○	絶縁抵抗計 (500Vメガー)		
				高圧回路は 1000V の絶縁抵抗計で測定し、据付時と比べて著しく低下していないことを確認する。						○	絶縁抵抗計 (1000Vメガー)		
				低圧回路は 500V の絶縁抵抗計で測定し、据付時と比べて著しく低下していないことを確認する。						○	絶縁抵抗計 (500Vメガー)		
2	機能を維持するための確認	各部の締め付け状況を確認する。								○		周囲環境を考慮した機能維持	

「個別点検」 19-9 高圧設備（電力ヒューズ）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法		点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考	
				毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月				
1	機能を維持するための確認	各部の締め付け状況を確認する。								○		周囲環境を考慮した機能維持	
2	絶縁耐力の確認	1000V絶縁抵抗計で測定し、据付時と比べて著しく低下していないことを確認する。								○	絶縁抵抗計 (1000Vメガー)	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	

「個別点検」 19-10 高圧設備（開閉器）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考	
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月				
1	外観、操作機能の確認	操作機構等の確認をする。							○		装置の正常動作の確認	
2	機能を維持するための確認	各部の締め付け状況確認及び内外面の清掃をする。							○		周囲環境を考慮した機能維持	
3	絶縁耐力の確認	主回路導電部—大地間は、1000V絶縁抵抗計により測定し、500MΩ以上であることを確認する。							○	絶縁抵抗計 (1000Vメガー)	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
		制御回路—括大地間は、500V絶縁抵抗計により測定し、2MΩ以上であることを確認する。							○	絶縁抵抗計 (500Vメガー)		

「個別点検」 19-11 高圧設備（母線）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考	
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月				
1	機能を維持するための確認	外面の清掃をする。							○		周囲環境を考慮した機能維持	17-5 閉鎖型受変電設備に含む。
		各部の締め付け状況を確認する。							※			※：3年毎に点検する。
2	絶縁耐力の確認	1000V絶縁抵抗計で測定、据付時と比べて著しく低下していないことを確認する。							○	絶縁抵抗計 (1000Vメガー)	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	17-5 閉鎖型受変電設備に含む。

「個別点検」 19-12 高圧設備（引込柱）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考	
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月				
1	外観による確認	腕金発錆、変形、緩み、湾曲、腐食碍子の汚損、ひび割れの有無を確認する。								○	周囲環境を考慮した機能維持	
		支線のゆるみ、玉碍子の破損、支線グリップの脱落等の有無を確認する。								○		

「個別点検」 19-13 高圧設備（区分開閉器（ガス・真空・気中を含む））

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	外観・構造の確認	碍子の汚損、ひび割れ、発錆等の確認をする。									
2	絶縁耐力の確認	1000V絶縁抵抗計で測定、据付時と比べて著しく低下していないことを確認する。							絶縁抵抗計 (1000Vメガー)	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
3	接地抵抗値の確認	A種接地 10Ω以下であることを確認する。							接地抵抗計		

「個別点検」 19-14 高圧設備（電線・支持物）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	外観・構造の確認	電線の碍子捕縛状況等の確認をする。								装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
2	絶縁耐力の確認	1000V絶縁抵抗計で測定、据付時と比べて著しく低下していないことを確認する。							絶縁抵抗計 (1000Vメガー)		

「個別点検」 19-15 高圧設備（ケーブル）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	外傷の確認	ケーブル露出部の腐食、亀裂、損傷等の有無を確認する。								装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
2	絶縁耐力の確認	1000V絶縁抵抗計で測定、据付時と比べて著しく低下していないことを確認する。							絶縁抵抗計 (1000Vメガー)		
3	ケーブル埋設ルート の確認	引込柱から引込盤（受電盤）までの高圧ケーブルルート（ハンドホール、埋設標示等）等の確認をする。									

「個別点検」 20-1 動力・電灯盤 (1/2)

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考	
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月				
1	外観、操作機能の確認	母線及び支持物	ボルト類の緩み、脱落の有無を確認する。						○	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	主回路引込み引出し部。	
			碍子、クランプ類の破損、変形接続部の変色の有無を確認する。						○			
			異物、塵埃の付着の有無確認と清掃による汚損除去をする。						○			
			ケーブル引込み口のシール状態を確認する。						○			
			小動物の侵入形跡を確認する。						○			
		制御回路	電線被覆の損傷、変色の有無を確認する。						○			
			端子接続部の緩み、変色の有無を確認する。						○			
			制御ヒューズの断線、変形、変色の有無を確認する。						○			
		引出し機構	ボルト類の緩み、脱落の有無を確認する。						○			主回路断路部・制御回路接続部。
			レール、ストップの変形の有無を確認する。						○			
			主回路断路部の変色の有無を確認する。						○			
			制御プラグの変形、破損の有無を確認する。						○			
			異物、塵埃の付着の有無確認と清掃による汚損除去をする。						○			
		端子台	挿入接触の状態を確認する。						○			
			端子接続部の緩み、変色の有無を確認する。						○			
			絶縁物の破損、変形の有無を確認する。						○			
			異物、塵埃の付着の有無確認と清掃による汚損除去をする。						○			
		接地線・接地端子	配線端子符号の確認をする。						○			
			端子接続部の緩み、変色の有無を確認する。						○			
		操作開閉器、切換開閉器	腐食、接地線の被覆、断線等の有無を確認する。						○			
接触部の荒れ、変色の有無を確認する。							○					
配切線替用遮断器	絶縁物の破損、変形の有無を確認する。						○					
	異物、塵埃の付着の有無確認と清掃による汚損除去をする。						○					
	端子部の変色の有無を確認する。						○					
	ボルト類の緩み、脱落の有無を確認する。						○					
		開閉具合が正常であるか確認する。					○					

「個別点検」 20-1 動力・電灯盤 (2/2)

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考	
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月				
1	外観、操作機能の確認	電補 磁助 接継 触電 器器 ・	絶縁物の破損、変形の有無を確認する。						○	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握		
			異物、塵埃の付着の有無確認と清掃による汚損除去をする。						○			
			端子部の変色の有無を確認する。						○			
			ボルト類の緩み、脱落の有無を確認する。						○			
			コイル、鉄心の変色、焼損の有無を確認する。						○			
		変成器	外観上の損傷、変形の有無を確認する。						○			
			取付けボルトの緩み、変色の有無を確認する。						○			
		避雷器	外観上の損傷、変形の有無を確認する。						○			
取付けボルトの緩み、脱落の有無を確認する。							○					
2	絶縁耐力の確認	絶縁抵抗 測定	高圧回路は1000Vの絶縁抵抗計で測定し、据付時と比べて著しく低下していないか確認する。						○	絶縁抵抗計（1000V メガー） 絶縁抵抗計（500V メガー・250V メガー）		
			低圧回路は500V、250Vの絶縁抵抗計で測定し、据付時と比べて著しく低下していないか確認する。						○			
3	機能を維持するための確認	各部の締め付け状態を確認する。							○	周囲環境を考慮した機能維持		
		各部の内外面の清掃による汚損除去をする。							○			

「個別点検」 20-2 直流電源装置〔遮断器投入用〕（触媒栓付き）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備 考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	整流器電圧電流測定	交流入力電圧、整流器出力電圧、電流、負荷電圧電流を測定し、基準値以内であることを確認する。						○	電圧計、電流計	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	アルカリ用と鉛用の保守用器具は混用しないこと。 消防法適用品は6ヶ月とする。
2	整流器充電電圧測定	浮動・均等充電電圧を測定し、蓄電池メーカーの推奨値にあることを確認する。						○	電圧計		
3	浮動・均等充電試験	タイマを30分程度に設定した均等充電を行い、自動的に浮動充電に切り替わることを確認する。また、手動で均等／浮動充電が切り替わることを確認する。						○			
		終了後、タイマは適正值に設定する。						○			
4	警報回路動作確認	各種保護項目、警報接点が出力されることを確認する。						○			
5	蓄電池の確認	蓄電池の液面を各セル毎に点検し、適正值にあることを確認する。 なお、不足の場合は補水する。						○			
		蓄電池電圧を各セル毎に測定し、基準値以内であることを確認する。なお、充電が必要な場合は均等充電を行う。						○	電圧計		
		蓄電池の比重及び液温をパイロットセル毎に測定し、基準値以内であることを確認する。なお、充電が必要な場合は均等充電を行う。						○	比重計 温度計		
6	機能を維持するための確認	整流器及び蓄電池の外表面を清掃する。						○		周囲環境を考慮した機能維持	
		機器取付状態の確認、整流器内外部及び蓄電池外表面を清掃する。						○			

「個別点検」 20-3 直流電源装置〔遮断器投入用〕(MSE形等)

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	整流器電圧電流測定	交流入力電圧、整流器出力電圧、電流、負荷電圧、電流を測定し、基準値内であることを確認する。						○	電圧計、電流計	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
2	警報回路動作試験	停電検出時、警報接点が出力されることを確認する。						○			
3	蓄電池の確認	蓄電池電圧を各セル毎に測定し、基準値内であることを確認する。 なお、蓄電池の内部抵抗を各セル毎に測定し確認する。						○	電圧計、インピーダンス計		消防用非常電源は6ヶ月とする
4	機能を維持するための確認	整流器及び蓄電池の外表面を清掃する。						○		周囲環境を考慮した機能維持	
		機器取付け状態の確認を行い、整流器内外部及び蓄電池外表面を清掃する。						○			

「個別点検」 20-4 分電盤

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	分電盤の機能確認	入力電圧測定、各出力回路毎の電流測定、絶縁抵抗測定、ケーブルの行先表示が適当か確認する。						○	絶縁抵抗計 (500Vメガー)	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	

「個別点検」 20-5 ハンドホール等

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	マンホール (ハンドホール)	マンホール、ハンドホールカバーの損傷の有無を確認する。 内部に浸水がないか確認する。						○		装置の正常動作の確認	

「個別点検」 21-1 監視制御盤類（操作卓）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	絶縁耐力の確認	絶縁抵抗測定 低圧回路は 500V、250V 絶縁抵抗計で測定し、据付時に比べて著しく低下していないことを確認する。						○	絶縁抵抗計 (500V メガー、 250V メガー)	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
2	機能を維持するための確認	各部の締め付け状況を確認する。						○		周囲環境を考慮した機能維持	
		各部の内外面の清掃による汚損除去をする。						○			

「個別点検」 21-2 監視制御盤類（補助継電器盤）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	外観、操作機能の確認	制御回路	電線被覆の損傷、変色の有無を確認する。						○	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
			端子接続部の緩み、変色の有無を確認する。						○		
			制御ヒューズの断線、変形、変色の有無を確認する。						○		
		端子台	端子接続部の緩み、変色の有無を確認する。						○		
			絶縁物の破損、変形の有無を確認する。						○		
			異物、塵埃の付着の有無確認と清掃による汚損除去をする。						○		
			配線端子符号の確認をする。（脱落の有無）						○		
		接地端子	端子接続部の緩み、変色の有無を確認する。						○		
			腐食、断線の有無を確認する。						○		
		操作スイッチ・切換スイッチ							○		
		接触部の荒れ、変色の有無を確認する。							○		
		補助継電器	絶縁物の破損、変形の有無を確認する。						○		
			異物、塵埃の付着の有無確認と清掃による汚損除去をする。						○		
			端子部の変色の有無を確認する。						○		
ボルト類の緩み、脱落の有無を確認する。							○				
コイル、鉄心の変色、焼損の有無を確認する。							○				
タイマの確認 タイマの設定値を確認する。							○				
2	絶縁耐力の確認	絶縁抵抗測定 抵抗回路は500V・250Vの絶縁抵抗計で測定し、据付時と比べて著しく低下していないことを確認する。						○	絶縁抵抗計 (500Vメガ、 250Vメガ)		
3	機能を維持するための確認	各部の締め付け状況を確認する。						○	周囲環境を考慮した機能維持		
		各部の内外面の清掃による汚損除去をする。						○			

「個別点検」 21-3 監視制御盤類（コントロールセンタ）（1/2）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考	
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月				
1	外観、操作機能の確認	母線室	ボルト類の緩み、脱落の有無を確認する。						○	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握		
			母線支持具の破損、変形の有無を確認する。						○			
			導体及び接続部の変色の有無を確認する。						○			
			異物、塵埃の付着の有無確認と清掃による汚損除去をする。						○			
			引込みケーブルの損傷を確認する。						○			
		総括端子台室	端子接続部の緩み、変色の有無を確認する。						○			
			電線被覆の損傷、変色の有無を確認する。						○			
			異物、塵埃の付着の有無確認と清掃による汚損除去をする。						○			
		接地線	端子接続部の緩み、変色の有無を確認する。						○			
			接地端子	腐食、断線の有無を確認する。							○	
		ユニット	ユニットの出し入れ、接触具合を確認する。								○	
			変成器の破損、変色の有無を確認する。								○	
			主回路プラグ、制御回路プラグの変形、損傷の有無を確認する。								○	
			接続部の緩み、変色の有無を確認する。								○	
			絶縁物の破損、変形の有無を確認する。								○	
		制御回路	異物、塵埃の付着の有無確認と清掃による汚損除去をする。								○	
			電線被覆の損傷、変色の有無を確認する。								○	
			端子接続部の緩み、変色の有無を確認する。								○	
		配漏線電用遮断器	制御ヒューズの断線、変形、変色の有無を確認する。								○	
			絶縁物の破損、変形の有無を確認する。								○	
			異物、塵埃の付着の有無確認と清掃による汚損除去をする。								○	
			端子部の変色の有無を確認する。								○	
		電補助接継触電器	ボルト類の緩み、脱落の有無を確認する。								○	
開閉具合が正常であるか確認する。 （MCCBのトリップ試験及びリセット動作確認）								○				
絶縁物の破損、変形の有無を確認する。								○				
異物、塵埃の付着の有無確認と清掃による汚損除去をする。								○				
電補助接継触電器	端子部の変色の有無を確認する。							○				
	ボルト類の緩み、脱落の有無を確認する。							○				

「個別点検」 21-3 監視制御盤類（コントロールセンタ）（2/2）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
2	絶縁耐力の確認	絶縁抵抗測定 低圧回路は 500V、250V 絶縁抵抗計で測定し、据付時に比べて著しく低下していないことを確認する。						○	絶縁抵抗計 (500V メガー、 250V メガー)	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
		接地抵抗測定 D種 100Ω以下であることを確認する。						○	接地抵抗計		
3	機能を維持するための確認	各部の締め付け状況を確認する。						○		周囲環境を考慮した機能維持	
		各部の内外面の清掃による汚損除去をする。						○			

「個別点検」 21-4 監視制御盤類（機側操作盤（標準型））

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	外観の状態確認	固定ボルト等の緩み、脱落等の有無及び損傷の有無を確認する。								装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
2	絶縁耐力の確認	低圧は500V絶縁抵抗計により測定し、5MΩ以上、高圧は1000V絶縁抵抗計により測定し、30MΩ以上であることを確認する。							絶縁抵抗計 (1000Vメガー、 500Vメガー)		
3	接地抵抗の確認	接地抵抗計により測定し、300V以下のものはD種100Ω以下、300Vを超えるものはC種10Ω以下であることを確認する。							接地抵抗計		

「個別点検」 21-5 監視制御盤類（機側操作盤（簡易型））

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	外観の状態確認	耐震施工の確認、塗装状態の確認をする。 ボルト、ナット等の締付状況の確認を行い、必要に応じて増締めを行う。 端子板接続部、ケーブルコネクタ等の緩み、断線等の確認をする。								装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
2	絶縁耐力の確認	絶縁抵抗は500V絶縁抵抗計により測定し、5MΩ以上であることを確認する。							絶縁抵抗計 (500Vメガー)		
3	接地抵抗の確認	接地抵抗はD種100Ω以下であることを確認する。							接地抵抗計		
4	機能の確認	自動運転、手動運転、切換機構及びこれらの動作確認をする。 排水水槽レベルスイッチ、換気用サーモスタットの動作確認、タイマの動作確認をする。									
		排水ポンプ及び換気ファンの動作基準値を比較して、レベルスイッチ、サーモスタットの設定値が適正であることを確認する。									

「個別点検」 21-6 監視制御盤類（計装設備）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	外観、操作機能の確認	制御回路	電線被覆の損傷、変色の有無を確認する。						○	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
			端子接続部の緩み、変色の有無を確認する。						○		
			制御ヒューズの断線、変形、変色の有無を確認する。						○		
		端子台	端子接続部の緩み、変色の有無を確認する。						○		
			絶縁物の破損、変形の有無を確認する。						○		
			異物、塵埃の付着の有無確認と清掃による汚損除去をする。						○		
		接地端子	端子接続部の緩み、変色の有無を確認する。						○		
			腐食、断線の有無を確認する。						○		
操作スイッチ・切換スイッチの確認 接触部の荒れ、変色の有無を確認する。							○				
2	特性の確認	入力電圧等各部電圧チェック端子を測定し確認する。						○	テスタ		
3	プリンタ機能の確認	紙送り機構、印字、打点機構、インク補給機構等の確認、記録紙時刻の調整をする。						○			
4	機能の確認	基準値と比較してH-L設定値が適正であることを確認する。						○	電圧計、電流計		
		H-L設定値により警報機能が動作することを確認する。 また、基準電圧（電流）に対するデジタル変換誤差を測定する。						○			
5	絶縁耐力の確認	絶縁抵抗測定 抵抗回路は500V・250V絶縁抵抗計で測定し、据付時に比べて著しく低下していないことを確認する。						○	絶縁抵抗計 (500Vメガ、 250Vメガ)		
6	機能を維持するための確認	各部の締め付け状況を確認する。						○		周囲環境を考慮した機能維持	
		各部の内外面の清掃による汚損除去をする。						○			

「個別点検」 2.2-1 電動機負荷（停止時）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	絶縁耐力の確認	絶縁抵抗の測定 低圧は500Vメガーにより測定し1MΩ以上、高圧は1000Vメガーにより測定し、5MΩ以上であることを確認する。						○	絶縁抵抗計（1000Vメガー・500Vメガー）	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
2	接地抵抗の確認	接地抵抗の測定 接地抵抗計により測定し、300V以下のものは100Ω以下、300Vを超えるものは、10Ω以下であることを確認する。						○	接地抵抗計		
3	附属温度標示計の確認	標準温度計と比較し、試験成績値により確認する。						○	標準温度計		
4	附属回転指示計の確認	標準回転計と比較し、試験成績値により確認する。						○	標準回転計		

（注）0.75KW以上で100KW以下の専用負荷回路となっているもの。

「個別点検」 2.2-2 電動機負荷（運転時）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	振動の確認	振動計により測定し、試験成績値及び製作者規格値以内であることを確認する。						○	振動計	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	規定以上は軸受の摩耗、軸心の狂い、ボルト等のゆるみなどを調査する。
2	フレーム軸受の温度確認	温度計により測定し、試験成績値及び製作者規格値以内であることを確認する。						○	温度計		規定値以上は潤滑油等の調査。
3	電流の確認	電流計により測定し、定格電流または実績負荷電流以内であることを確認する。						○	電流計		軸受部及び電動機負荷の状況を調査する。

（注）0.75KW以上で100KW以下の専用負荷回路となっているもの。

「個別点検」 2-2-3 照明負荷

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	外観、機能の確認	配線箇所湿気、塵埃の有無を確認する。								装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
		開閉器及び点滅器等の確認をする。									
2	絶縁耐力の確認	絶縁抵抗を測定し確認する。（表-1参照） （図-1参照）							絶縁抵抗計 （500V・250V・125V メガー）		分電盤で回路別一括測定

表1 絶縁抵抗値

電路の使用電圧の区分		絶縁抵抗値
300V 以下	対地電圧（接地式電路においては電線と大地との間の電圧、非接地式電路においては電線間の電圧をいう。以下同じ）が150V以下の場合。	0.1 MΩ
	その他の場合。	0.2 MΩ
300V を超えるもの		0.4 MΩ

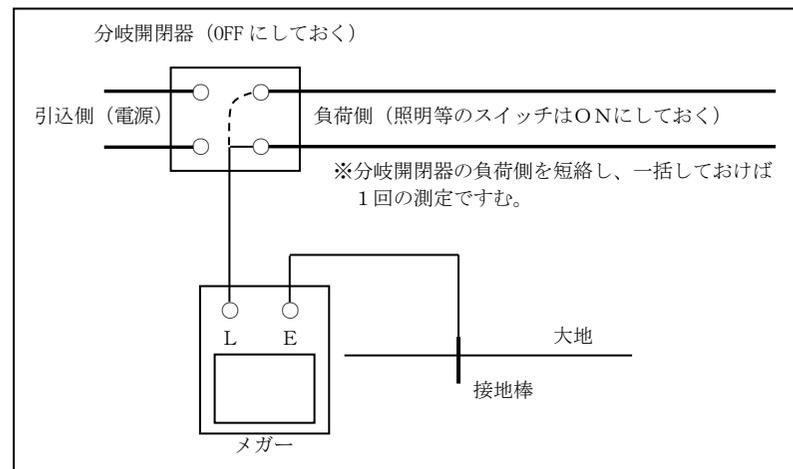


図1 絶縁抵抗測定方法

「個別点検」 22-4 動力負荷

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	外観、操作機能の確認	伝達機構、起動装置の動作を確認する。						○		装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
		口出線接続部の状況を確認する。						○			
		自動制御装置の動作状況を確認する。						○			
2	機能を維持するための確認	電動機及び盤類等の清掃をする。						○		周囲環境を考慮した機能維持	
3	絶縁耐力及び機能の確認	絶縁抵抗及び接地抵抗を測定し確認する。 (図-1及び図-2参照) (表-1及び表-2参照)						○	絶縁抵抗計 (500V・250V・125V メガー) 接地抵抗計	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	分電盤で回路別一括測定
4	絶縁耐力及び機能の確認	電熱乾燥装置 絶縁抵抗及び接地抵抗を測定し確認する。 (図-1及び図-2参照) (表-1及び表-2参照)						○	絶縁抵抗計 (500V・250V・125V メガー) 接地抵抗計		

表1 絶縁抵抗値

電路の使用電圧の区分		絶縁抵抗値
300V 以下	対地電圧（接地式電路においては電線と大地との間の電圧、非接地式電路においては電線間の電圧をいう。以下同じ）が 150V 以下の場合。	0. 1 MΩ
	その他の場合。	0. 2 MΩ
300V を超えるもの		0. 4 MΩ

表2 接地抵抗値

接地工事の種類	接地抵抗値
A種接地工事	1 0 Ω
B種接地工事	変圧器の高圧側又は特別高圧側の電路の一線地絡電流のアンペア数で 150（変圧器の高圧側の電路又は使用電圧が 35000V 以下の特別高圧の電路と低圧側の電路との混触により低圧電路の対地電圧が 150V を超えた場合に、1 秒を超え 2 秒以内に自動的に高圧電路又は使用電圧が 35000V 以下の特別高圧電路を遮断する装置を設けるときは 300、1 秒以内に自動的に高圧電路又は使用電圧が 35000V 以下の特別高圧電路を遮断する装置を設けるときは 600）を除いた値に等しいオーム数
C種接地工事	10 Ω（低圧電路において、当該電路に地気を生じた場合に 0.5 秒以内に自動的に電路を遮断する装置を施設するときは、500 Ω）
D種接地工事	100 Ω（低圧電路において、当該電路に地気を生じた場合に 0.5 秒以内に自動的に電路を遮断する装置を施設するときは、500 Ω）

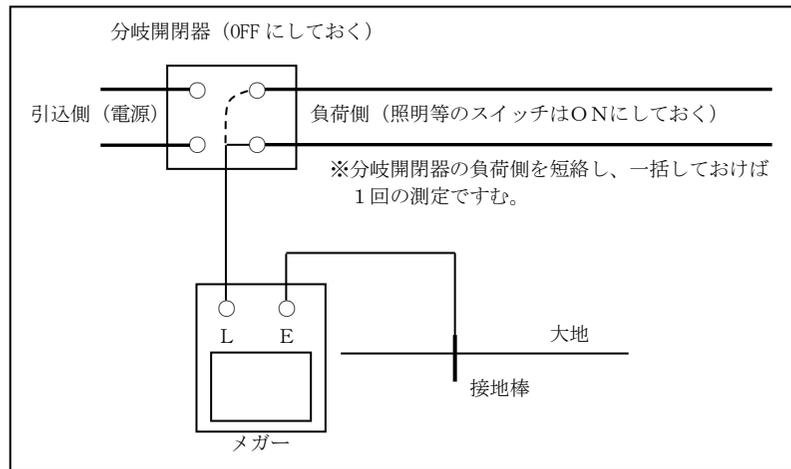


図1 絶縁抵抗測定方法

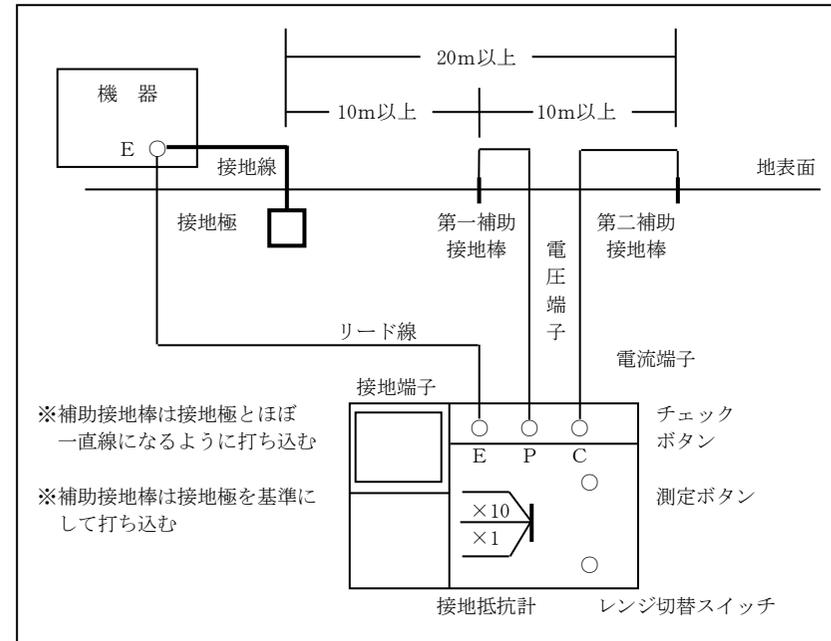


図2 接地抵抗測定方法

「個別点検」 23-1 ロードヒーティング

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考	
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月				
1	操作、機能の確認	計器、表示灯、操作機構の確認をする。						○	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握			
		発錆、腐蝕、損傷、塗装の剥離、扉の開閉等の確認をする。						○				
		配電盤	警報装置、保護装置の回路試験を行い、異常がないことを確認する。								○	
			盤構成器具の変色、配線端子符号の脱落、異常過熱等の確認をする。								○	
			絶縁抵抗測定。 主回路－大地間を 500V 絶縁抵抗計により測定し、5MΩ 以上であることを確認する。								○	絶縁抵抗計 (500V メガー)
		計器用変成器 外部点検（汚損、腐食、過熱、異音、ヒューズの異常、接地線接続部）を行い、異常がないことを確認する。						○				
		電磁接触器 接点の摩耗、溶損等及び操作機構の確認をする。						○				
		漏電遮断器	機器外箱の接地状態の確認をする。								○	
			操作機構の確認をする。								○	
			テストボタンによるトリップ試験を行い、異常がないことを確認する。								○	
開閉試験を行い、異常がないことを確認する。						○						
発熱線の絶縁抵抗測定 主回路－大地間を 500V 絶縁抵抗計により測定し、0.2MΩ 以上であることを確認する。						○	絶縁抵抗計 (500V メガー)					
2	機能を維持するための確認	各部の増締め 締付け部、取付ボルト及び接続部の緩みを増締めする。						○	周囲環境を考慮した機能維持			
		機器各部の内外面の清掃をする。						○				
3	図書類・予備品等の確認	図書類の保管状況及び予備品等の数量を確認する。						○	障害時の備え			

「個別点検」 24-1 発動発電機（ディーゼル）〔原動機〕（1/2）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	外観、運転状態の確認	本体系	ファンベルトの確認をする。			※	○			装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
			燃料噴射ポンプブラック目盛位置及び注油、摺動の確認をする。			※	○				
			セルモータ接点及びブラシ等の確認をする。			※	○				
			エア・フィルターの確認をする。			※	○				
			過給器プロアフィルタの確認をする。			※	○				
			燃料油こし器のドレン抜きをする。					○			
			潤滑油こし器のドレン抜きをする。					○			
			予熱栓の確認をする。					○			
			消音器のドレン抜きをする。					○			
		防振装置、耐震装置の確認をする。					○				
		空気始動系	空気圧縮機の潤滑油、ベルトの確認をする。					○			
			空気配管の腐蝕、支持状況、空気もれを確認する。					○			
			電動弁、手動弁の開閉状況及び空気もれを確認する。					○			
			表示札の確認をする。					○			
		冷却水系	冷却水配管の腐蝕、支持状況を確認する。					○			
			各種電動弁、手動弁の開閉状況を確認する。					○			
			表示札の確認をする。					○			
		燃料系	燃料小出槽のドレン抜きをする。					○			
			燃料配管の腐蝕、支持状況を確認する。					○			
			手動弁の開閉状態を確認する。					○			
表示札の確認をする。						○					
潤滑油系	燃料槽通気管の確認をする。					○					
	潤滑油系プライミングポンプの確認をする。					○					

※設置環境、重要性等に応じて実施

「個別点検」 24-1 発動発電機（ディーゼル）〔原動機〕（2/2）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備 考		
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月					
2	性能、機能の確認	本体系	機関回転数計測。				※	○		装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握 周囲環境を考慮した機能維持			
			潤滑油圧力計測。				※	○					
			潤滑油温度計測。				※	○					
			冷却水圧力計測。				※	○					
			冷却水温度計測。				※	○					
			排気温度計測。				※	○					
		空気始動系	空気圧縮機の自動運転停止試験を行い確認する。				※	○					空気始動のみ。
			空気圧力継電器動作試験を行い確認する。				※	○					
		冷却水系	冷却用ポンプ自動運転停止の確認をする。						○				
			冷却水ポンプ操作盤の動作を確認する。						○				
			冷却塔及びラジエタの動作を確認する。						○				
		燃料系	燃料移送ポンプの自動運転停止の確認をする。						○				
			燃料移送ポンプの操作盤の動作を確認する。						○				
潤滑系	潤滑油プライミングポンプの自動運転停止の確認をする。						○						
3	機能を維持するための確認	本体系	各部の清掃をする。				※	○	周囲環境を考慮した機能維持				
			空気圧縮機、空気槽、操作盤の清掃をする。				※	○					
		冷却水系	冷却水ポンプ、操作盤の清掃をする。				※	○					
		燃料系	燃料槽の汚損、発錆の有無を確認する。				※	○					
			燃料槽、燃料移送ポンプ、燃料移送ポンプ操作盤の清掃をする。				※	○					
		潤滑系	潤滑油のプライミングポンプ、操作盤の清掃をする。				※	○					

※設置環境、重要性等に応じて実施

「個別点検」 24-2 発動発電機（ディーゼル）〔発電機〕

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考	
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月				
1	外観、機能の確認	巻線・鉄心部	巻線の変形、亀裂の有無を確認する。						○	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握		
			鉄心の変色、変形、錆の有無を確認する。						○			
			絶縁物の変色、脱落の有無を確認する。						○			
			じんあい等による汚損、目詰り、異物の有無を確認する。						○			
			リード線、渡り線の状態を確認する。						○			
		界	ブラシなし方式	励磁機内の汚損、異物の有無を確認する。								○
				整流素子、冷却フィンの状態を確認する。								○
				締付部の状態を確認する。								○
		界	ブラシあり方式	ブラシの摩耗の状態を確認する。				※	○			
				スリップリングの状態を確認する。				※	○			
		磁	すべり軸受部	潤滑油量、オイルの汚れを確認する。				※	○			
				パッキング部等からの漏油の有無を確認する。				※	○			
				軸受メタルのカラーチェックによる剥離状況を確認する。					○			
				軸受メタルのクリアランスを測定し確認する。					○			
端子	端子	オイルリングの変形、摩耗を確認する。					○					
		口出線の劣化、汚損、損傷の有無を確認する。					○					
		端子箱、保護カバーの取付状態を確認する。					○					
2	絶縁耐力の確認 接地抵抗の測定	絶縁抵抗測定 高圧回路は1000V絶縁抵抗計、低圧回路は500V絶縁抵抗計で測定し、据付時と比べて著しく低下していないことを確認する。 接地抵抗測定 接地抵抗を測定し、高圧はA種10Ω以下、低圧は300V以下のものはD種100Ω以下、300Vを超えるものはC種10Ω以下であることを確認する。						○	絶縁抵抗計 (1000Vメガー、 500Vメガー) 接地抵抗計			
		3	機能を維持するための確認	発電機外側の清掃をする。							○	周囲環境を考慮した機能維持

※設置環境、重要性等に応じて実施

「個別点検」 24-3 発動発電機（ディーゼル）〔直流電源盤〕

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	性能、機能の確認	整流器交流入力電圧、出力電圧、電流、負荷電圧電流、蓄電池電圧を測定し確認する。						○	テスタ、比重計	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	消防適用品は6ヶ月する。
		蓄電池、セル毎の電圧、電解液比重を測定し確認する。						○			
		浮動充電、均等充電自動切替試験を行い確認する。						○			
		保護回路、警報回路の動作試験を行い確認する。						○			
		蓄電池の交換推奨時期を確認する。						○			
		蓄電池の内部抵抗を各セル毎に測定し、標準値以下であることを確認する。						○	インピーダンス計	MSEのみ適用	
2	機能を維持するための確認	整流器、蓄電池清掃をする。						○		周囲環境を考慮した機能維持	

「個別点検」 24-4 発動発電機（ディーゼル）〔煙道、消音器〕

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	外観、運転状態の確認	煙道、消音器の汚損、発錆、断熱覆及び支持状況の確認をする。						○		装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
		貫通部の遮熱保護、止水状況の確認をする。						○			
		消音器のドレン抜きをする。						○			
		周囲に可燃物が置かれていないことを確認する。						○			

「個別点検」 24-5 発動発電機（ディーゼル）〔発電機盤・制御盤〕（1/2）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備 考		
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月					
1	性能、機能の確認	配漏線電用遮断器	絶縁物の破損、変形の有無を確認する。						○	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握			
			異物、塵埃の付着の有無確認と清掃による汚損除去をする。						○				
			端子部の変色の有無を確認する。						○				
			ボルト類の緩み、脱落の有無を確認する。						○				
			開閉具合に異常がないか確認する。						○				
		電補磁助接触器	連動動作が正常か確認する。						○				
			絶縁物の破損、変形の有無を確認する。						○				
			異物、塵埃の付着の有無確認と清掃による汚損除去をする。						○				
			端子部の変色の有無を確認する。						○				
			ボルト類の緩み、脱落の有無を確認する。						○				
		真空遮断器							—				19-3 高圧設備（真空遮断器）の点検基準による
		主回路	主回路接続部の締付状態を確認する。						○				
			主回路の変色、変形、錆の有無を確認する。						○				
			充電部相互、大地間の離隔距離を確認する。						○				
		制御回路	端子台、器具の接続部の締付状態を確認する。						○				
			配線の損傷、断線、結束の状態を確認する。						○				
		計器用変成器	絶縁物、モールド、鉄心の錆汚損、亀裂の有無を確認する。						○				
			接触部、端子部の過熱による変色の有無を確認する。						○				
		接地デ用ンコサ	ケース、絶縁物の汚損、損傷の有無を確認する。						○				
			端子部の過熱による変色の有無を確認する。						○				
		保護継電器	動作表示器の動作、復帰具合の確認をする。						○				
			接触部の接点の荒れ、変色の有無を確認する。						○				
			コイル及び内装部品の変色、変形の有無を確認する。						○				
			単体特性試験を行い確認する。						○				
計器	指針の曲がり、せり等の確認をする。						○						
	記録計のインキ、チャート指示の確認をする。						○						
	校正試験をする。（変換器含む）						○						

「個別点検」 24-5 発動発電機（ディーゼル）〔発電機盤・制御盤〕（2/2）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備 考
			毎 日	1 ヶ 月	2 ヶ 月	3 ヶ 月	6 ヶ 月	12 ヶ 月			
1	性能、機能の確認	自動 制 御 装 置 (A V R)	設定器、リレー等接触部の確認をする。						○		装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握
			各部の締付状態の確認をする。						○		
			各部の汚損、損傷、変色の有無を確認する。						○		
2	機能を維持するための確認	清 掃 ・ 増 縮	盤面、内部器具の塵埃の除去及び清掃をする。						○		周囲環境を考慮した機能維持
			主回路接続部、制御回路接続部の締付け状況の確認をする。						○		
		そ の 他	各機器の外観、取付状態を確認する。						○		
			盤内の汚損、異物の落下の確認をする。						○		
			接地線の異常、接続部の締付状態を確認する。						○		

「個別点検」 24-6 発動発電機（ガスタービン）〔原動機〕

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考	
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月				
1	外観、運転状態の確認	本体系	異常振動、異常音、異常温度上昇のないことを確認する。						○	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握		
			セルモータ接点及びブラシ等の確認をする。						○			
			燃料こし器の確認をする。						○			
			潤滑油こし器の確認をする。						○			
			潤滑油クーラーファンの確認をする。						○			
		空気圧縮機入口のろ網の確認をする。						○	検定器			
		燃料系	燃料槽の汚損、発錆の有無を確認する。									○
			燃料移送ポンプ操作盤の確認をする。									○
			燃料小出槽ドレン抜きをする。									○
			燃料配管の腐蝕、支持状況の確認をする。									○
			手動弁の開閉機構の確認をする。						○			
		燃料槽通気管の確認をする。						○				
		2	性能、機能の確認	本体系	回転数計測				※			○
潤滑油圧力計測							※	○				
潤滑油温度計測							※	○				
空気圧縮機吐出圧力計測							※	○				
排気温度計測							※	○				
燃料系	各センサのコネクタの緩みを確認する。								○			
	燃料コントロール系のスムーズな動き、ハンティングの有無及びリンク稼働部への注油を行う。								○			
	燃料昇圧ポンプ等関係補機の動作状況を確認する。								○			
	点火栓のスパークの状態を確認する。								○			
									○			
3	機能を維持するための確認	本体系	各部の清掃をする。						○	周囲環境を考慮した機能維持		
			点火栓の清掃をする。						○			
		燃料系	燃料槽、燃料移送ポンプ、燃料移送ポンプ操作盤の清掃をする。						○			
潤滑油系	潤滑油の交換時期、状態（量、粘土、色）を確認する。						○					

※設置環境、重要性等に応じて実施

「個別点検」 24-7 発動発電機（ガスタービン）〔発電機〕

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考		
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月					
1	外観、機能の確認	巻線・鉄心部	巻線の変形、亀裂の有無を確認する。						○	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握			
			鉄心の変色、変形、錆の有無を確認する。						○				
			絶縁物の変色、脱落の有無を確認する。						○				
			じんあい等による汚損、目詰り異物の有無を確認する。						○				
			リード線、渡り線の状態を確認する。						○				
		界磁	ブラシなし方式	励磁機内の汚損、異物の有無を確認する。								○	
				整流素子、冷却フィンの状態を確認する。								○	
				締付部の状態を確認する。								○	
			すべり軸受部	潤滑油量、オイルの汚れを確認する。				※	○				
				バックリング部等からの漏油の有無を確認する。				※	○				
				軸受メタルの当り確認及び修正をする。								○	
		軸受メタルのカラーチェックによる剥離を確認する。							○				
		軸受メタルのクリアランスを測定し確認する。						○					
		オイルリングの変形、摩耗の有無を確認する。						○					
端子	口出線の劣化、汚損、損傷の有無を確認する。						○						
	端子箱、保護カバーの取付状態を確認する。						○						
	接続部、ケーブルヘッド、絶縁処理の状態を確認する。						○						
2	絶縁耐力の確認	絶縁抵抗測定 高圧回路は 1000V 絶縁抵抗計、低圧回路は 500V 絶縁抵抗計で測定し、据付時に比べて著しく低下していないことを確認する。						○	絶縁抵抗計 (1000V メガー、 500V メガー)				
3	機能を維持するための確認	発電機外側の清掃をする。						○		周囲環境を考慮した機能維持			

※設置環境、重要性等に応じて実施

「個別点検」 24-8 発動発電機（ガスタービン）〔直流電源盤〕

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	性能、機能の確認	整流器交流入力電圧、出力電圧、電流、負荷電圧電流、蓄電池電圧を測定し確認する。						○	テスタ、比重計	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	消防適用品は6ヶ月する。
		蓄電池、セル毎の電圧、電解液比重を測定し確認する。						○			
		浮動充電、均等充電自動切替試験を行い確認する。						○			
		保護回路、警報回路の動作試験を行い確認する。						○			
		蓄電池の交換推奨時期を確認する。						○			
		蓄電池の内部抵抗を各セル毎に測定し、標準値以下であることを確認する。					○	インピーダンス計		MSE（HSE）のみ適用	
2	機能を維持するための確認	整流器、蓄電池清掃をする。						○		周囲環境を考慮した機能維持	

「個別点検」 24-9 発動発電機（ガスタービン）〔煙道〕

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	外観、運転状態の確認	煙道、消音器の汚損、発錆、断熱覆及び支持状況の確認をする。						○		装置の正常動作の確認	
		貫通部の遮熱保護、止水状況の確認をする。						○			
		周囲に可燃物が置かれていないことを確認する。						○			

「個別点検」 24-10 発動発電機（ガスタービン）〔発電機盤・制御盤〕（1/2）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考	
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月				
1	外観、機能の確認	配線 線電 用用 遮遮 断断 器器	絶縁物の破損、変形の有無を確認する。						○	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握		
			異物、塵埃の付着の有無確認と清掃による汚損除去をする。						○			
			端子部の変色の有無を確認する。						○			
			ボルト類の緩み、脱落の有無を確認する。						○			
			開閉具合が正常であるか確認する。						○			
		電補 磁助 接継 触電 器器	絶縁物の破損、変形の有無を確認する。						○			
			異物、塵埃の付着の有無確認と清掃による汚損除去をする。						○			
			端子部の変色の有無を確認する。						○			
			ボルト類の緩み、脱落の有無を確認する。						○			
			コイル、鉄心の変色、焼損の有無を確認する。						○			
		真空遮断器							-			19-3 高圧設備（真空遮断器）の点検基準による
		主回路	主回路接続部の締付状態を確認する。						○			
			主回路の変色、変形、錆の有無を確認する。						○			
			充電部相互、大地間の隔離距離を確認する。						○			
		制御回路	端子台、器具の接続部の締付状態を確認する。						○			
			配線の損傷、断線、結束の状態を確認する。						○			
		計器 用変 成器	絶縁物、モールド、鉄心の錆汚損、亀裂の有無を確認する。						○			
			接触部、端子部の過熱による変色の有無を確認する。						○			
		接 地 デ 用 ン コ サ	ケース、絶縁物の汚損、損傷の有無を確認する。						○			
			端子部の過熱による変色の有無を確認する。						○			
		保 護 継 電 器器	動作表示器の動作、復帰具合の確認をする。						○			
			接触部の接点の荒れ、変色の有無を確認する。						○			
			コイル及び内装部品の変色、変形の有無を確認する。						○			
			単体特性試験を行い確認する。						○			
計 器器	指針の曲がり、せり等の確認をする。						○					
	記録計のインキ、チャート指示の確認をする。						○					
	校正試験をする。（変換器含む）						○					
自 動 制 御 装 置 （ A V R ）	設定器、リレー等接触部の確認をする。						○					
	各部の締付状態の確認をする。						○					
	各部の汚損、損傷、変色の有無を確認する。						○					

「個別点検」 24-10 発動発電機（ガスタービン）〔発電機盤・制御盤〕（2/2）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
2	機能を維持するための確認	清掃・増縮								周囲環境を考慮した機能維持	
		その他									

「個別点検」 24-11 発動発電機（携帯型）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	動作状態の確認	発電機を動作させ規定の電圧が発生するか確認する							テスタ	装置の正常動作の確認 標準値（規定値）との照合 測定結果の変化傾向の把握	
		異常音、油漏れ等がないか確認する									
2	機器本体の清掃等	機器外面の清掃									
		燃料の残量及びオイルの汚れの確認									

「個別点検」 25-1 環境点検（観測所局舎・中継所局舎等）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	局舎屋外における外観確認	局舎及び基礎部の破損、発錆、塗装の剥離、変形の有無を確認する。				※	※	○		局舎の経年変化、風風雪、地震、飛来物等による劣化または、損傷による当該設備への影響等を確認する。	
		壁面等雨漏れ、ひび割れ及び塗装の剥離等の異常がないか確認する。				※	※	○			
		屋根、屋上防水面の処置に異常はないか、雨漏りがないか確認する。				※	※	○			
		フェンスの破損箇所、施錠装置、発錆、塗装の剥離、基礎部の異常はないか確認する。				※	※	○			
		標識板に異常はないか確認する。				※	※	○			
		周囲の他施設が伝搬路に影響を及ぼさないか確認する。				※	※	○			
		敷地内及び周辺の地滑りはないか確認する。				※	※	○			
		出入り口の施錠の状態、扉開情報（警報出力）は正常であるか確認する。				※	※	○			
2	局舎屋内における外観確認	保守用道路等の法面崩壊や路面崩落、落石等の危険箇所はないか確認する。				※	※	○		点検時の通行の安全を確保するとともに事故発生を未然に防止する。	
		棚・キャビネット、測定器等の固定、耐震対策は十分であるか確認する。				※	※	○			
		天井部、壁面部等からの雨漏りまたはその痕跡等がないか確認する。				※	※	○			
		蛍光灯（照明器具）の破損、劣化、不点状態を確認する。				※	※	○			
		蜂、蛇、ねずみ等の小動物が侵入する恐れはないか確認する。				※	※	○			
		電気及び火気を使用する場所において、消火器（CO2、粉末）の設置状態の確認及び有効期限の確認をする。				※	※	○			
		無線局においては、免許状等の掲示状況の確認をする。				※	※	○			
		増設負荷設備等への適正配線、適正分岐（分電盤等）の確認をする。				※	※	○			
3	局舎内外の清掃	トイレの状況、炊事場の水回りの確認をする。				※	※	○		環境の整備を行い、事故の発生を未然に防止する。	
		排水溝やルーフドレンを点検し、状況により清掃をする。				※	○				
		局舎内及び敷地内の整理、整頓及び清掃をする。				※	○				

※設置条件、重要性等に応じて修正

「個別点検」 25-2 環境点検（受変電設備建屋）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法等	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備 考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	建屋屋外における外観確認	局舎及び基礎部の破損、発錆、塗装の剥離、変形の有無を確認する。				※	※	○		室外環境を考慮した、設備の健全性維持	
		壁面等雨漏れ、ひび割れ及び塗装の剥離等の異常がないか確認する。				※	※	○			
		屋根、屋上防水面の処置に異常はないか、雨漏りがないか確認する。				※	※	○			
		フェンスの破損箇所、施錠装置、発錆、塗装の剥離、基礎部の異常はないか確認する。				※	※	○			
		出入口の施錠の状態、扉開情報（警報出力）は正常であるか確認する。				※	※	○			
2	建屋屋内における外観確認	天井部、壁面部等からの雨漏りまたはその痕跡等がないか確認する。				※	※	○		室内環境を考慮した、設備の健全性維持	
		蛍光灯（照明器具）の破損、劣化、不点状態を確認する。				※	※	○			
		棚・キャビネット、測定器等の固定、耐震対策は十分であるか確認する。				※	※	○			
		電気及び火気を使用する場所において、消火器（CO2、粉末）の設置状態の確認及び有効期限の確認をする。				※	※	○			
		蜂、蛇、ねずみ等の小動物が侵入する恐れはないか確認する。				※	※	○			
		点検通路が確保（障害物等により遮蔽されていないこと）されていることを確認する。				※	※	○			
3	建屋内の清掃	局舎内及び敷地内の整理、整頓及び清掃をする。					※	○			

※設置条件、重要性等に応じて修正

「個別点検」 25-3 環境点検（空調設備）

No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法等	点検周期						使用測定器等	点検目的の概要	備 考
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月			
1	機器の状態確認	機器の取付け状況を確認する。				※	※	○		装置の正常動作を維持し、通信・情報機器等の適正な運用を図る。	
		装置本体の加熱、異音、振動、異臭の有無を確認する。				※	※	○			
		電磁開閉器類の加熱、異音を確認する。				※	※	○			
2	室内温度の設定及び確認	局舎屋内の温度確認（観測機器に与える温度（高・低）の確認）及びサーモスタット等温度設定を確認する。				※	※	○		室内温度を管理し、機器の正常な機能の維持を図る。	
3	絶縁抵抗測定及び接地抵抗測定	絶縁抵抗及び接地抵抗を測定し基準値内であることを確認する。						○	絶縁抵抗計 （500V メガー） 接地抵抗計	基準値内であることを確認する。	
4	接続部の確認	接続ケーブル、端子等の接続状態を確認する。						○		接続の緩み、損傷を早期に発見・復旧させる。	
5	清掃等	機器及び周囲の清掃をする。						○		清掃を行うと共に環境整備を図る。	

※設置条件、重要性等に応じて実施